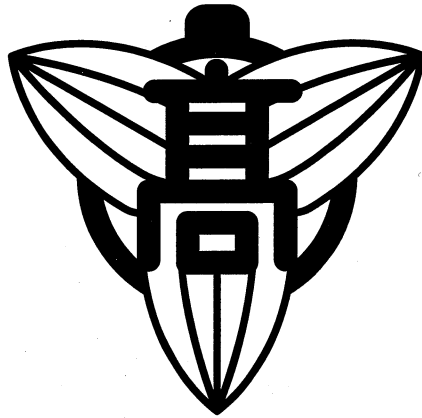


校章



校訓

誠 愛 勇

◇ 校 章 (昭和22年制定) ◇

旧制釧路中学校の熊笹六葉を三葉とし、「高」の文字を中に入れた立山昌司(生徒)の案に久本春雄画伯(本校美術教諭)が釧路のいわれである腕輪を加えて作成したものである。(「釧中物語」による)

◇ 校 訓 (昭和2年制定) ◇

第三代 平 澤 虎 一 校長 制定

◇ 校 歌 の 由 来 (昭和3年制定) ◇

釧中13期生の担当教諭であった菅原覚也氏(本行寺4代目住職)が、当時、釧中校歌の一般公募に投稿、最優秀作品として表彰され、その後、文学博士高野辰之氏の校閲を経て正式に採用されたものである。菅原氏は、昭和38年に没したが、歌詞の「五星霜」が「三星霜」に変わっただけで、湖陵高校校歌として尚歌いつがれていることに大変感謝していたという。

作曲者信時 潔氏(1887~1965)は、日本を代表する作曲界の先駆者であり作風は古典的で素朴な歌曲を多く残した。1910年、東京音楽学校本科卒業(現東京芸大)その後ドイツに留学し帰国後(1923)母校の教授となる。1942年 芸術院会員・1963年 文化功労者 主な作品に「海ゆかば」など、地元では、釧路市の歌・北教大釧路校校歌がある。

◇ スクールカラー ◇ (戦前の釧路中学時代より受け継がれている)

真 紅

応援歌No.2の三番の歌詞に「真紅の旗はだてじゃない」とあって古くから歌いつがれてきている。

北海道釧路湖陵高等学校校歌

昭和3年制定

菅原 覚也 作詩

信時 潔 作曲

高野 辰之 校閲

♩ = 約 96



一、日出づる国の北陸に

神秘を削る丈夫の

関十一州に反響して

曙光あまねし蝦夷が原

瞻よ東方の釧路岬

湖陵に立てる我が学舎

二、攻学の心自治の魂

久遠の使命胸に秘め

鈴蘭薫る春採の

丘に微笑む若人が

誠を雪に類へつつ

理想は高し阿寒山

三、学の苑に旦暮の

師恩を讃う三星霜

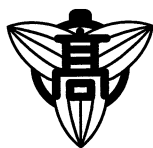
愛ゆかしき兄弟よ

吹雪く曠野も荒海も

訓の道を守りつつ

共に進まん勇ましく

1 学校教育目標等



北海道釧路湖陵高等学校

学校教育目標等（全日制課程）



スクール・ミッション

- 次代を担うグローバルリーダーとして、新たな社会的な価値の創造と科学技術分野の発展に貢献できる人材の育成
- 向学心や探究心を身に付け、自己の進路決定に向けて意欲的に学習に取り組む生徒の育成
- 多様化する国際社会において主体的かつ協働的に取り組む資質・能力を身に付けた生徒の育成

学校教育目標

よりよい未来の共創を目指して、主体的に社会の形成に参画しながら、地域や日本、国際社会の持続的発展に寄与するリーダーを育成するために、

- 自ら学び、考える、心身ともに鍛え、高い知性を身に付けた人を育てます。
- 主体的に計画し、行動する、創造性豊かで、高い志をもった人を育てます。
- 他者を尊重し、ともに高め合う、人間性豊かで、高い道徳心をもった人を育てます。

スクール・ポリシー

○グラデュエーション・ポリシー（湖陵GP）

探究力、創造力、国際的コミュニケーション力を身に付けた生徒の育成

- ア 自ら学ぶ力を持ち、探究力、創造力、国際的コミュニケーション力の基盤となる強固な体系的知識を身につけた生徒
- イ 論理的、多角的で柔軟な思考によって、自ら課題に気づき、周囲と協働して課題解決に取り組むことができるリーダー性を身につけた生徒
- ウ 将来のイノベーションを実現しうる創造性と、先鋭的な領域へ挑戦するマインドを持つ生徒
- エ 異なる文化や価値観を寛容する姿勢を持ち、国際的な場面に挑戦しようとする行動力と語学力を身につけた生徒
- オ 自らの変容を客観的に評価し、学びのプロセスを主体的に構築することができる生徒

○カリキュラム・ポリシー（湖陵CP）

多様な学びに対応する教育課程の編成と目指すべき生徒育成のための柱

- ア 全ての教科・科目の方針
 - (ア) 主体的で対話的な深い学びを目指す授業改善の推進
 - (イ) 自己の成長・変容に気づく適切な学習評価の実施
 - (ウ) ICT活用による個別最適化した学習の推進
 - (エ) 進路希望を見据えた適切な科目選択の推進
- イ スーパーサイエンスハイスクール事業等の方針
 - (ア) 科学的な探究手法を用いた探究活動の充実
 - (イ) 医進類型事業の充実
 - (ウ) 外部人材を活用した活動の充実
 - (エ) ルーブリックを活用した探究活動に係る資質・能力の育成
- ウ キャリア教育の方針
 - (ア) 3年間の系統的なキャリア教育の可視化
 - (イ) 積極的な進路情報の発信
 - (ウ) 外部テストを用いた学習状況の把握と分析
 - (エ) 高大連携の推進
- エ 特別活動の方針
 - (ア) 仲間と協働し合意形成したり、協調して行動する力の育成

○アドミッション・ポリシー（湖陵AP）

本校が求める生徒像

基本的な生活習慣が身に付いており、学習活動はもとより、生徒会活動、学校行事や部活動等に積極的に参加する生徒で、それぞれの学科において次のいずれにも該当する生徒

- | 文理探究科 | 理数探究科 |
|--|--|
| ア 知的探究心があり、現代的な諸課題等について、他者と協働しながら課題の解決や新たな価値の創造に向けて、主体的に学ぶことができる生徒 | ア 知的探究心があり、現代的な諸課題等について、他者と協働しながら課題の解決や新たな価値の創造に向けて、主体的に学ぶことができる生徒 |
| イ 社会科学や人文科学、自然科学など、幅広い学習分野に興味・関心がある生徒 | イ 特に、理科や数学など、自然科学分野の学習に興味・関心が高い生徒 |

2 学校経営シラバス（全日制課程）

学校教育目標		学校の使命(スクールミッション)	
よりよい未来の共創を目指して、主体的に社会の形成に参画しながら、地域や日本、国際社会の持続的発展に寄与するリーダーを育成するために、 ○ 自ら学び、考える、心身ともに鍛え、高い知性を身に付けた人を育てます。 ○ 主体的に計画し、行動する、創造性豊かで、高い志をもった人を育てます。 ○ 他者を尊重し、ともに高め合う、人間性豊かで、高い道徳心をもった人を育てます。		○ 次代を担うグローバルリーダーとして、新たな社会的な価値の創造と科学技術分野の発展に貢献できる生徒の育成 ○ 多様化する国際社会において、主体的かつ協働的に取り組む資質・能力を身に付けた生徒の育成 ○ 校訓「誠 愛 勇」のもと、向学心や探究心を高めながら、自己の進路実現に向けて意欲的に学校生活に取り組む生徒の育成	
3つの方針(スクール・ポリシー)			
○ グラデュエーション・ポリシー(湖陵GP):「探究力、創造力、国際コミュニケーション力」を身に付けた生徒の育成」 ○ カリキュラム・ポリシー(湖陵CP):「多様な学びに対応する教育課程の編成」 ○ アドミッション・ポリシー(湖陵AP):「本校が求める生徒像」		※詳細は省略	
学校経営方針			
○ スクール・ポリシーを踏まえ、入学から卒業までの体系的かつ継続性のある教育活動を展開し、目指すべき学校像として再定義されたスクール・ミッションの達成を図りながら学校教育目標を達成する。 ○ カリキュラム・マネジメントや学校評価をはじめとした、教育活動のマネジメントサイクルを確立し、教育活動の改善・充実を図る。 ○ 「探究力、創造力、国際コミュニケーション力」をバランスよく身に付けさせる教育活動を推進するとともに、自己の在り方生き方を考えさせながら、よりよく課題を発見し解決するための資質・能力を育む探究的な学習活動の充実を図る。 ○ 服務規律の遵守はもとより、教員のライフステージを踏まえながら、自己研修を奨励したり、校内研修等を計画的に実施したりするなど、教職員の資質・向上に努める。 ○ 「学校における働き方改革『北海道アクションプラン』」等を踏まえ、効率的な校務運営に努めるなど、教員の働き方改革を推進する。			
対象	中期目標(～R8)	今年度の目標	目標達成のための具体的な取組(評価の観点)
学習指導	◎主体的に学ぶ意欲と学力の向上	○学校設定科目を中心とした探究的な学びの充実を図る。 ○生徒の学習成果を客観的に判断する観点別学習評価の改善を図る。 ○教科等横断的な学習活動の充実に努める。 ○ICTの活用について研修に努める。	○SSH推進部との連携を密にし、適切に実施できる環境を確保に努める。 ○観点別評価をより適切に実施できるように評価方法の改善に努める。 ○授業公開や互見授業により教員の連携を密にし、他教科と合同nでの授業の実施を図る。 ○授業での活用を促すとともに、授業で活用できる学習環境の整備に努める。
生徒指導	◎自律性や社会性を培い、責任を持って行動できる個性ある生徒の育成	○生徒の社会的資質や行動力等の向上を目指した指導の充実を図るとともに、「生徒心得」の改善・充実に取り組む。 ○いじめの未然防止と望ましい人間関係の構築に向けて、教職員による生徒理解を深める。	○学校全体で、気持ちの良い挨拶や返事の重要性について指導する。スマホやタブレットの使用ルールやマナーについて、自律に基づいた行動ができるように指導する。 ○部長主任会議や職員会議・朝の打合せ等により情報共有を密に行い、日頃より生徒の実態把握に努める。また、いじめアンケート実施後には、生徒指導部よりフィードバックを作成し、情報の共有に努める。
キャリア教育(進路指導)	◎自己理解を深め、主体的に考え、自らの力で進路を切り拓く能力の育成	○3年間の見通しを持った体系的な進路指導、進路活動が出来るように指導方針を提示する。 ○生徒の学習状況を測定・分析し、課題の改善に生かす。 ○生徒のキャリアプランを構築するため、説明会等の実施形態を工夫する。 ○生徒・保護者を支援するため、教職員による情報収集を計り、適切な情報発信に努める。	○各学年、分掌と連携し、体系的な進路指導方針を提示し、生徒が自己の進路実現に向けて主体的に活動できるよう促す。(探究活動を通して、自分の適性を知る。) ○模試校内分析会の実施と生徒へのフィードバックを行い、生徒の主体的な学習の促進につなげる。 ○生徒が卒業生の進路先での学びや、地域の職業人の職業観に触れる機会として、湖陵アカデミアの開催を増やし、生徒の参加を促す。 ○教職員の各種研究会、検討会への参加を促進し、進路通信等を利用した適切な情報発信に努める。
健康・安全指導	◎心身の健康増進及び安全、環境美化意識の高揚	○心身ともに健康の保持増進の充実を図る。 ○防災や危機管理に関する意識の向上を図る。 ○教育相談に関するスキルの向上と組織的な取り組みを推進する。 ○各種アンケートの活用と評価の充実改善を図る。	○積極的な啓発を行い、健康に対する意識を高め、自己管理できるような支援を実施する。 ○防災避難訓練を通して防火防災意識の向上に努めるとともに、減災を意識した生活態度の涵養に取り組む。 ○サポート委員会や分掌、学年間の情報共有を密にする。スクールカウンセラーとの連携を通じた、個々の生徒への適切な対応に取り組む。 ○学年や SSH 推進部と連携して心と身体のチェック・自己効力測定等のアンケートを実施し、生徒や教職員に適切にフィードバックすることで、生徒理解に取り組む。
理数教育	◎SSH事業を活用した探究能力の育成	○VUCA 時代に対応した Koryo Agency の整理と体系化を図る。 ○SSH推進委員会によるPDCAサイクルの確立に努める。 ○KQ と総合的な探究の時間の実施内容の充実を図る。	○評価委員会を実施し、Koryo Agency を構成するコンピテンスを測定する方法の研究開発を行う。 ○SSH推進委員会の実施と、各ワーキンググループの運営を通じ、コンピテンス配列表を作成するとともに、教科横断的なPBL型授業の実施につなげる。 ○KQ と総合的な探究の時間の年間計画を作成し、内容の精査・改善を行う。

3 沿 革

- 大正元・8

北海道庁立釧路中学校設立認可(8月31日)
- " 2・4

第1回入学式举行
1学級募集(入学定員50名)
- " 2・9

本校舎完成
- " 2・11

開校式举行
- " 8・4

2学級募集(入学定員100名)
- " 11・4

3学級募集(入学定員150名)
- " 13・5

4教室増築
- 昭和2・10

「誠」「愛」「勇」の校訓制定
- " 3・3

平屋2教室増築
- " 3・4

校歌制定
- " 3・6

父兄会を創立
- " 4・1

父兄会から柔道場寄付
- " 9・4

校友会から図書室寄付
- " 9・12

父兄会から工作室寄付
- " 11・8

屋外運動場を拡張
- " 12・12

父兄会から剣道場寄付
- " 15・4

4学級募集(入学定員200名)
- " 16・3

父兄会から銃器室寄付
- " 17・4

5学級募集(入学定員250名)
- " 23・4

道立釧路高等学校ならびに併置中学校と改称
高校1・2年5学級 3年3学級
併中3年5学級 計276名
小計636名
合計912名
- " 24・3

第1回卒業式举行(釧路高等学校)
- " 24・4

6学級募集(入学定員300名)
- " 25・4

北海道釧路湖陵高等学校と改称
学区制による男女共学実施 生徒数958名
女子用便所改築2・木工室を改造し物理教室、生物教室及び準備室とする。
普通教室2を被服室に改造
平屋3教室をろう学校に貸付
図書館改造3教室(普通教室)南中学校に貸付
- " 26・4

商業課程2学級新たに募集
- " 26

北海道釧路富士見高等学校(市立)を吸収し
定時制普通科3間口をおく
吸収以前の沿革は次段のとおり

- 大正12・4・1

私立釧路商業中等学校(夜間3年制)として開校
- 昭和20

釧路市立中学校と改称
- " 23

釧路市立高等学校と改称し併置中学校をおく
- " 25・7

北海道釧路富士見高等学校と改称

- 昭和26

定時制音別(尺別)、上尾幌に分校開校
- " 26・11

4教室増築着工
- " 27・3

同竣工
- " 27

定時制上尾幌分校、江南高校に移設
- " 27・9

創立40周年記念式典行う(9月21日)
- " 28

定時制・音別高校独立
- " 28・2

出火、校舎1,288焼失(2月22日)
第1体育館等360坪を残す
災害復旧対策委員会設立
市長佐熊宏平委員長就任
同議会復興決議
- " 28・4

入学式を公民館において行い残存校舎に仮工事をなし、1・3年16学級を収容し、東中に2年8学級教室の貸与を受け28年度授業開始
- " 28・6

6千万円の中央起債承認第1期工事として鉄筋3階建792.37坪を田中組と契約
- " 28・7

1,400万円の道費700万円の市の寄付を決定し、第2期工事鉄筋ブロック2階建(6教室)田中組と契約
- " 28・9

地鎮祭举行
- " 29・9

落成式举行(9月22日)
校舎竣工移転完了
- " 30・3

男子便所10坪新設
- " 31・3

道議会において屋内体育館につき次の通り議決移築115坪
新築218坪(渡り廊下18坪を含む)
総工費810万円(内半額地元負担)
- " 31・4

定時制課程4間口をおく
- " 31・9

屋内体育館落成式举行
- 昭和34・3

商業課程募集停止
物置及び石炭庫竣工
- " 37・4

学級増募入学定員450名9学級
- " 37・8

50周年記念図書館102坪竣工
- " 37・9

全日制課程50周年・定時制課程40周年記念式典举行(9月13日)
- " 37・12

普通教室2増築
- " 38・12

普通教室2増築
- " 39・10

生徒南玄関増築
- " 40・4

定時制・40周年記念誌発行
- " 41

定時制E T A(職場と学級を結ぶ会)設立
- " 42・8

校舎全面漏水防止塗装施行(第1期)
- " 43・6

50周年記念館建設地鎮祭(150坪)
- " 43・9

運動場照明施設建設
校舎全面漏水防止塗装施行(第2期)
屋内体育館床張り替え(第2期)
- " 43・10

50周年記念館落成
- " 44・4

理数科設置、入学定員40名、1学級

普通科入学定員360名、8学級

〃 44・8 理科3教室改修工事完成

〃 47・9 60周年記念式典挙行（9月10日）

〃 48・12 被服実習室新築（144㎡、総工費742万円）

〃 50・4 定時制課程1間口減、3間口となる

〃 51・4 普通科入学定員405名、9学級

〃 51・12 男子便所増築（77㎡、総工費883万円）
普通教室3増築（532㎡、総工費2,209万円）

〃 57・4 定時制課程1間口減、2間口となる

〃 58・9 全日制課程70周年・定時制課程60周年記念式典挙行（9月17日）

〃 62・7 校舎移転改築決定

〃 63・6 校地造成・外構工事着工

平成2・9 校舎移転

〃 3・9 全日制課程80周年・定時制課程70周年記念式典並びに校舎落成記念式典挙行（9月29日）

〃 6・4 普通科入学定員378名、9学級
（1学級の定員42名となる）

〃 7・4 普通科入学定員369名、9学級
（1学級の定員41名となる）
平成7年定時制課程3年生1間口減

〃 8・3 第2屋内体育館完成

〃 8・4 普通科入学定員360名、8学級
（1間口減、1学級の定員40名となる）
平成8年定時制課程1年生、4年生1間口減

〃 9・4 平成9年定時制課程2年生1間口減
定時制課程1間口となる

〃 10・3 第50回卒業式挙行（3月1日）

〃 11・3 トイレ・シャワー棟完成（避難場所、施設の指定による）

〃 12・4 普通科入学定員280名、7学級
（1間口減となる）

〃 14・9 全日制課程90周年・定時制課程80周年記念式典挙行（9月21日）

〃 15・2 第1屋内体育館暖房改修工事完成

〃 15・4 文部科学省の学力向上フロンティアハイスクール事業指定校（平成17年度まで）

〃 16・4 普通科入学定員240名、6学級
（1間口減となる）

〃 21・4 普通科入学定員200名、5学級
（1間口減となる）

〃 22・4 普通科入学定員240名、6学級
（1間口増となる）

〃 23・4 普通科入学定員200名、5学級
（1間口減となる）

〃 24・4 文部科学省のスーパーサイエンスハイスクール（SSH）事業指定校

〃 24・9 全日制課程100周年・定時制課程90周年記

念式典挙行（9月29日）

〃 25・4 阿寒高校とのセンター・キャンパス校開始

〃 27・1 大規模改修工事完了

〃 28～29 アクティブ・ラーニング実践研究（SCRU）道東地区研究拠点校指定

〃 30・4 文部科学省のスーパーサイエンスハイスクール（SSH）事業指定校（Ⅱ期）

令和4・4 文部科学省の新時代に対応した高等学校改革推進事業（普通科改革支援事業）指定校

〃 4・9 全日制課程110周年・定時制課程100周年記念式典挙行（9月22日）

〃 5・4 文部科学省のスーパーサイエンスハイスクール（SSH）事業指定校（Ⅲ期）

〃 6・4 理数科は理数探究科へ学科転換
（入学定員40名、1学級）
普通科は文理探究科へ学科転換
（入学定員160名、4学級）

4 学級・生徒数及び職員数

学 級 数

課 程	科 別	学 年			計
		1 年	2 年	3 年	
全 日 制	理数探究科	1	1		2
〃	理 数 科			1	1
〃	文理探究科	4	4		8
〃	普 通 科			5	5

職 員 数

区 分 課 程	校 長	常 勤								合 計	非 常 勤							合 計
		副 校 長	教 頭	主 幹 教 諭	教 諭	養 護 教 諭	事 務 職 員	実 習 助 手	業 務 主 任		A L T	S S H 支 援 員	時 間 講 師	産 業 医	学 校 医	学 校 歯 科 医	学 校 薬 剤 師	
全日制	1	1	1	1	42	1	5	3	1	56	1	1	5	1	1	1	1	11

生 徒 数

令和7年5月1日

	H・R	男	女	計	H・R	男	女	計		H・R	男	女	計	
理数探究科	1年1組	27	13	40	2年1組	25	14	39	理数科	3年1組	27	14	41	
文理探究科	1年2組	20	20	40	2年2組	18	22	40	普通科	3年2組	24	13	37	
	1年3組	19	20	39	2年3組	17	22	39		3年3組	22	18	40	
	1年4組	19	20	39	2年4組	18	22	40		3年4組	21	19	40	
	1年5組	18	20	38	2年5組	18	22	40		3年5組	15	25	40	
										3年6組	14	24	38	
計		103	93	196			96	102	198	計		123	113	236
理数探究科 男 52 女 27 計 79														
文理探究科 男147 女168 計315 総計630 (男 322 女 308)														
理 数 科 男 27 女 14 計 41														
普 通 科 男 96 女 99 計195														

6 年間行事予定表

4 月		5 月		6 月		7 月		8 月		9 月	
日曜	行事	日曜	行事	日曜	行事	日曜	行事	日曜	行事	日曜	行事
1 火	学年始休業	1 木	内科検診③(1年)	1 日		1 火	○	1 金	夏期講習Ⅱ(～8/5) 教員採用2次試験会場校 ⁸	1 月	○
2 水		2 金	1年SC講話(6h)	2 月	○ 高体連全道壮行会	2 水	○ 学年部会	2 土	教員採用2次試験会場校 ⁹	2 火	○ 第2回定期試験
3 木	部長主任会議	3 土	憲法記念日 小論文模試①	3 火	○ 第1回定期試験	3 木	○	3 日	教員採用2次試験会場校 ¹⁰	3 水	○ 学年部会
4 金	職員会議	4 日	みどりの日	4 水	○ 学年部会	4 金	○ 避難訓練①	4 月		4 木	○
5 土		5 月	こどもの日	5 木	○	5 土		5 火		5 金	○
6 日		6 火	振替休日	6 金	○ 3学年進路説明会	6 日	英検2次	6 水		6 土	共催共テ模試②
7 月		7 水	○ 学年部会	7 土		7 月	○ 部長主任会議 サポート委員会	7 木		7 日	
8 火	着任式・始業式・入学式	8 木	尿検査① 高体連地区壮行会	8 日		8 火	○	8 金		8 月	○ 追試験①
9 水	1年課題テスト 新入生歓迎会 学年部会 1年スタサポ 心電図・X線 2,3年課題テスト	9 金	看護ガイダンス 分掌部会	9 月	○ 追試験① 分掌部会	9 水	○ 学年部会	9 土	全統共テ模試②	9 火	○ 追試験②
10 木		10 土	全統共テ模試① 公務員模試②	10 火	○ 追試験② 尿検査③	10 木	○	10 日		10 水	○ 追試験③ 学年部会
11 金	1年個人写真 オリエンテーション HR写真撮影	11 日		11 水	○ 追試験③ 学年部会	11 金	○ 湖陵祭①	11 月	山の日 学校閉庁日①	11 木	○ 追試験④
12 土	3年学力記述模試	12 月	○ 面談週間(5短) 教育実習(～23日)	12 木	○ 追試験④	12 土	○ 湖陵祭②	12 火	学校閉庁日②	12 金	○
13 日		13 火	○	13 金	○	13 日	○ 湖陵祭③	13 水	学校閉庁日③	13 土	○ 小論文模試③
14 月	身体測定 分掌部会 自転車保険申込①	14 水	○ 学年部会	14 土	○ 教員採用試験1次 会場設営(午後～)	14 月	○ 振替休日(7/12) 公務員模試④	14 木	学校閉庁日④	14 日	
15 火	歯科検診① 自転車保険申込②	15 木	○	15 日	○ 教員採用試験1次会場 公務員模試③	15 火	○ 振替休日(7/13)	15 金	学校閉庁日⑤	15 月	○ 敬老の日
16 水	歯科検診② 学年部会	16 金	○	16 月	○ 部長主任会議	16 水	○ 学年部会	16 土	東大・京大模試	16 火	○
17 木	1年宿泊研修① 内科検診①(3年)	17 土	○ 全統記述①	17 火	○ 高文連放送全道大会 当番校(～20)	17 木	○	17 日		17 水	○ 分掌部会
18 金	1年宿泊研修②	18 日		18 水	○ 学年部会	18 金	○ 成績会議 職員会議	18 月	職員検診	18 木	○
19 土		19 月	○ ハートフル支部大会当番校 部長主任会議	19 木	○	19 土	○ 小論文模試②	19 火	○ 振替休日(9/20分)	19 金	○ 学年部会
20 日		20 火	○ ソフトテニス支部大会当番校	20 金	○ サポート委員会	20 日		20 水	○ 登校開始 課題テスト	20 土	○ 土曜授業②(中3向け学校説明会)
21 月	○ 部長主任会議 サポート委員会	21 水	○ 学年部会	21 土		21 月	○ 海の日	21 木	○	21 日	
22 火	○ 薬物乱用防止・交通安全教室	22 木	○ 尿検査②	22 日		22 火	○	22 金	○ 分掌部会	22 月	○ 開校記念日
23 水	○ 学年部会	23 金	○ 英検1次 教育実習最終日 サポート委員会	23 月	○ 職員会議	23 水	○ 学年部会	23 土	○ 全統高2模試 全統記述模試②	23 火	○ 秋分の日 早慶レベル模試
24 木	○ 内科検診②(2年)	24 土	○ ベネッセ共テ模試	24 火	○	24 木	○ 全校集会	24 日		24 水	○ 学年部会 部長主任会議
25 金	○ 生徒総会 職員会議	25 日		25 水	○ 学年部会	25 金	○ 夏季休業	25 月	○ 部長主任会議 サポート委員会	25 木	○ 体育大会①
26 土	○ 土曜授業①(湖陵の日) PTA総会・1年進路説明会	26 月	○ 職員会議	26 木	○	26 土	○ 夏期講習Ⅰ(～7/30)	26 火	○ 定期試験時間割発表	26 金	○ 体育大会② 英検1次・サポート委員会
27 日	○ 公務員模試①	27 火	○ 定期試験時間割発表	27 金	○ 2年SC講話(6h)	27 日		27 水	○ 学年部会	27 土	○ 看護模試③
28 月	○ 湖陵の日振替	28 水	○ 学年部会	28 土	○ 1・2年学力テスト 3年ベネ記述	28 月		28 木	○	28 日	
29 火	○ 昭和の日	29 木	○	29 日		29 火		29 金	○ 統一学校説明会 職員会議	29 月	○
30 水	○ 学年部会	30 金	○	30 月	○	30 水		30 土	○ 看護模試②	30 火	○ 前期修了日(午前授業) 職員会議・中間反省会議
		31 土	○ 看護模試①			31 木		31 日			

10月		11月		12月		1月		2月		3月	
日曜	行事	日曜	行事	日曜	行事	日曜	行事	日曜	行事	日曜	行事
1水	後期始業日 学年部会 高文連演劇当番校(～3日)	1土	1・2年学力テスト 共催共テ模試③	1月	見学旅行①	1木	元日 校舎使用禁止 学校閉庁日⑨	1日	3年家庭学習(～26日) 2年共テ,1年駿台・全統	1日	卒業式
2木		2日		2火	見学旅行②	2金	学校閉庁日⑩	2月	振替休業日(1/31分)	2月	振替休業日(3/1分)
3金	3年SC講話(6h) 分掌部会	3月	文化の日 個別大オープ	3水	見学旅行③ 学年部会	3土	学校閉庁日⑪	3火		3火	学力検査会場設営
4土	高2駿台模試 全統共テ模試②	4火		4木	見学旅行④	4日		4水	学年部会	4水	学力検査日 (生徒休業日)
5日		5水	学年部会	5金	見学旅行⑤	5月		5木		5木	採点① (生徒休業日)
6月	成績会議	6木		6土	駿台共テプレ	6火		6金	卒業認定会議 年度末反省会議	6金	採点② (生徒休業日)
7火	面談週間(5短)	7金	1年ライフデザイン講座	7日		7水		7土		7土	
8水	学年部会	8土	代ゼミ共テ模試(～11/9)	8月	成績会議	8木		8日		8日	英検2次
9木		9日	英検2次	9火		9金		9月	推薦入学面接会場設営	9月	部長主任会議 サポート委員会
10金		10月	分掌部会	10水	学年部会	10土		10火	推薦入学面接日 (生徒休業日)	10火	
11土	共催記述模試②	11火	第3回定期試験	11木		11日		11水	建国記念の日	11水	(学力検査追検査日) 学年部会
12日		12水	学年部会	12金		12月	成人の日	12木	第4回定期試験 学年部会	12木	スタディーサポート
13月	スポーツの日	13木		13土		13火		13金	入選会議	13金	入選会議
14火		14金		14日		14水	冬季休業最終日	14土		14土	
15水	学年部会	15土		15月	部長主任会議	15木	登校開始 課題テスト	15日		15日	
16木		16日		16火		16金	3年自宅学習(～19日) 分掌部会 英検1次	16月	部長主任会議 サポート委員会	16月	合格発表準備 (生徒休業日)
17金		17月	追試験① 部長主任会議	17水	学年部会	17土	共通テスト1日目 1・2年学力テスト	17火		17火	合格発表日
18土	全統記述模試③	18火	追試験②	18木		18日	共通テスト2日目	18水	追試験① 学年部会	18水	職員会議、進級認定会議
19日		19水	追試験③ 学年部会	19金	サポート委員会	19月	3年共テ自己採点	19木	追試験②	19木	
20月	部長主任会議	20木	追試験④	20土		20火		20金	追試験③ 職員会議	20金	春分の日
21火		21金	サポート委員会 先端科学移動大学講演会	21日		21水	部長主任会議 学年部会	21土		21土	
22水	学年部会	22土	全統共テプレ	22月	職員会議	22木		22日		22日	
23木	避難訓練②	23日	勤労感謝の日	23火	全校集会	23金	サポート委員会	23月	天皇誕生日	23月	
24金	サポート委員会	24月	振替休日	24水	冬季休業初日	24土	共通テスト事後指導	24火	追試験④	24火	修了式・離任式
25土	駿台個別大模試	25火		25木		25日		25水	学年部会	25水	学年末休業
26日		26水	学年部会	26金		26月	職員会議	26木		26木	
27月	職員会議	27木		27土		27火		27金	卒業式予行	27金	新入生事前登校日
28火		28金	職員会議	28日		28水	学年部会	28土		28土	
29水	学年部会	29土		29月	校舎使用禁止 学校閉庁日⑥	29木				29日	
30木	生徒会役員選挙	30日		30火	学校閉庁日⑦	30金				30月	
31金				31水	学校閉庁日⑧	31土	土曜授業③(生徒発表会)			31火	
22		18		17		13		16		12	200

7 教育課程表

(1) 令和7年度入学者（理数探究科）

A 表

(表 面)

教育局 釧路

北海道釧路湖陵高等学校 全日制課程

学科 理数探究科

第1学年の
学 級 数

1

教科	科目・標準単位数	学年 類型	1 年	2 年	3 年	計
				α β	α β	α β
国語	現代の国語	2	2			2
	言語文化	2	2			2
	論理国語	4				
	文学国語	4		2	2	4
	国語表現	4				
	古典探究	4		2	2	4
地理歴史	地理総合	2	2			2
	地理探究	3		3		0～3
	歴史総合	2	2	3		2
	日本史探究	3		3		0～3
	世界史探究	3		3		0～3
	○ゼミナール地理	3			3	0～3
	○発展日本史	3			3	0～3
	○発展世界史	3			3	0～3
	公民	2		2		2
公民	倫理	2				
	政治・経済	2				
	○時事問題研究	3			3	0～3
	数学 I	3				
	数学 II	4				
	数学 III	3				
数学	数学 A	2				
	数学 B	2				
	数学 C	2				
理科	科学と人間生活	2				
	物理基礎	2				
	物理	4				
	化学基礎	2				
	化学	4				
	生物基礎	2				
	生物	4				
	地学基礎	2				
	地学	4				
保健体育	体育	7～8	2	2	3	7
	保健	2	1	1		2
芸術	音楽 I	2	2			0～2
	音楽 II	2				
	音楽 III	2				
	美術 I	2	2			0～2
	美術 II	2		2		
	美術 III	2				
	工芸 I	2				
	工芸 II	2				
	工芸 III	2				
書道	書道 I	2	2			0～2
	書道 II	2				
	書道 III	2				
外国語	英語コミュニケーション I	3	3			3
	英語コミュニケーション II	4		4		4
	英語コミュニケーション III	4			4	4
	論理・表現 I	2				
	論理・表現 II	2		2		2
	論理・表現 III	2			2	2
家庭	○ S S 英語	2	2			2
	家庭基礎	2	1			1
	家庭総合	4				
情報	情報 I	2				
	情報 II	2				
	○ S S 情報	2	1	1		2
理数	理数探究基礎	1				
	理数探究	2～5				

A 表

(裏面)

北海道釧路湖陵高等学校

全日制課程

学科

理数探究科

教科	科目・標準単位数	学年 類型	1 年	2 年	3 年	計
			α	β	α β	α β
理数	理数数学Ⅰ	5～9				
	理数数学Ⅱ	8～12				
	理数数学特論	3～8				
	理数物理	3～10				
	理数化学	3～10				
	理数生物	3～10				
	理数地学	3～10				
	○SS理数数学Ⅰ	5	5			5
	○SS理数数学Ⅱ	11		5	6 6	11 11
	○SS物理	6		2	4	6
○KCS	○SS化学	6	2	2	2 2	6 6
	○SS生物	6	2	2	2 2	6 6
	○KCS基礎	3	3			3
	○KCS探究	2		2		2
○KCS	○KCS発展	1			1	1
	各学科に共通する各教科・科目の計		20	19	16	55
	主として専門学科において開設される各教科・科目の計		9	11	14	34
学校設定教科に関する科目の計			3	2	1	6
総合的な探究の時間 生き抜く力			3～6	0	0	0
合 計			32	32	31	95
特別活動	ホームルーム活動		1	1	1	3
教育課程に係るその他の事項						
卒業までに修得させる単位数			95 単位		卒業に必要な履修と修得の単位数	1 分離している ○ 2 分離していない
学期の区分			○ 1 3学期制 2 2学期制		学期の区分ごとの単位修得の認定	○ 1 実施している 2 実施していない
1 単位時間の弾力化			○ 1 標準の50分を1単位時間として実施する。 2 標準以外の単位時間を学校が設定して実施する。 [1日の授業時間を()分×()時間で実施] 3 いくつかの単位時間を組み合わせて実施する。 [1週のうち()日間を、1日当たり()分×()時間で実施]と、[1週のうち()日間を、1日当たり()分×()時間で実施]を組み合わせて実施する。 4 その他()			
学校外における学修の単位認定			○ 1 実施している 2 実施していない			
総合的な探究の時間の実施方法			○ 1 週時程に位置付けて実施する。 2 週時程に位置付けず、年間を通して又は特定の期間に実施する。			
備考			教科情報の「情報Ⅰ」(2単位)は、教科情報の「SS情報」(2単位)で代替する。 「総合的な探究の時間」(3単位)は、「理数探究基礎」(1単位)、「理数探究」(2単位)で代替する。 1年の「理数探究基礎」(1単位)は、教科KCSの「KCS基礎」(3単位)で代替する。 1年の「論理・表現Ⅰ」(2単位)は、「SS英語」(2単位)で代替する。 2年の「理数探究」(1単位)は、教科KCSの「KCS探究」(2単位)で代替する。 3年の「理数探究」(1単位)は、教科KCSの「KCS発展」(1単位)で代替する。 「家庭基礎」(1単位)は、教科KCSの「KCS基礎」(3単位)で代替する。 「理数数学Ⅰ」(5～9単位)は、教科理数の「SS理数数学Ⅰ」(5単位)で代替する。 「理数数学Ⅱ」(8～12単位)は教科理数の「SS理数数学Ⅱ」(11単位)で代替する。 「理数物理」(3～10単位)は教科理数の「SS物理」(6単位)で代替する。 「理数化学」(3～10単位)は教科理数の「SS化学」(6単位)で代替する。 「理数生物」(3～10単位)は教科理数の「SS生物」(6単位)で代替する。 北海道釧路江南高等学校で開設されている「教員基礎」を道立高等学校間連携により選択することが可能である。 ※名称の前に○を付した教科又は科目は、学校が設定したものである。			

注 用紙の大きさは、日本産業規格A列4番縦型とする。

(2) 令和7年度入学者（文理探究科）

A 表

(表 面)

教育局 釧路

北海道釧路湖陵高等学校 全日制課程

学科 文理探究科

第1学年の
学 級 数

4

教科	科目・標準単位数	学年 類型	1 年	2 年	3 年	計
国語	現代の国語	2	2			2
	言語文化	2	2			2
	論理国語	4		2	2	0～4
	文学国語	4		2	2	4
	国語表現	4				
	古典探究	4		2	2	4
地理歴史	地理総合	2	2			2
	地理探究	3		3		0～3
	歴史総合	2	2	3		2
	日本史探究	3		3		0～3
	世界史探究	3		3		0～3
	○ゼミナール地理	3			3	0～3
	○発展日本史	3			3	0～3
	○発展世界史	3			3	0～3
	公民	2		2	3	2
数学	倫理	2			2	0～2
	政治・経済	2			2	0～2
	○時事問題研究	3			3	0～3
	数学Ⅰ	3	3			3
	数学Ⅱ	4				
	数学Ⅲ	3				
	数学A	2				
	数学B	2				
	数学C	2				
	○数学研究Ⅰ	2			2	0～2
	○数学研究Ⅱ	2			2	0～2
	○KS数学Ⅰ	2	2			2
理科	○KS数学Ⅱ	6		6		6
	○KS数学Ⅲ	6			6	0～6
	○KS数学探究	6			6	0～6
	科学と人間生活	2				
	物理基礎	2	2	★4		2
	物理	4				
	化学基礎	2		2	☆14	※14 0～2
	化学	4				
	生物基礎	2	2			2
	生物	4				
	地学基礎	2		2		0～2
	地学	4				
	○KS物理	2			2	0～2
		5		2	3	0～5
	○KS化学	2			2	0～2
		3			3	0～3
		5			5	0～5
	○KS生物	2			2	0～2
		4			4	0～4
		5		2	3	0～5
	○KS地学	2			2	0～2
保健体育	体育	7～8	2	2	3	7
芸術	保健	2	1	1		2
	音楽Ⅰ	2	2			0～2
	音楽Ⅱ	2				
	音楽Ⅲ	2				
	美術Ⅰ	2	2			0～2
	美術Ⅱ	2				
	美術Ⅲ	2		2		
	工芸Ⅰ	2				
	工芸Ⅱ	2				
	工芸Ⅲ	2				
	書道Ⅰ	2	2			0～2
	書道Ⅱ	2				
	書道Ⅲ	2				
	○音楽表現	2			2	0～2
	○美術表現	2			2	0～2
	○書道表現	2			2	0～2

A 表

(裏面)

北海道釧路湖陵高等学校

全日制課程

学科

文理探究科

教科	学年		1 年	2 年	3 年	計
	科目・標準単位数	類型				
外国語	英語コミュニケーションⅠ	3	3			3
	英語コミュニケーションⅡ	4		4		4
	英語コミュニケーションⅢ	4			4	4
	論 理 ・ 表 現 Ⅰ	2				
	論 理 ・ 表 現 Ⅱ	2		2		2
	論 理 ・ 表 現 Ⅲ	2			2	2
	○ 応 用 英 語	2			2	0～2
	○ S S 英 語	2	2			2
家庭	家 庭 基 礎	2	2			2
	家 庭 総 合	4				
情報	情 報 Ⅰ	2				
	情 報 Ⅱ	2				
	○ S S 情 報	2		2		2
理数	理 数 探 究 基 礎	1				
	理 数 探 究	2～5				
○総合	○ Koryo Quest	3	3			3
各学科に共通する各教科・科目の計			29	30	30	89
主として専門学科において開設される各教科・科目の計			0	0	0	0
学校設定教科に関する科目の計			3	0	0	3
総合的な探究の時間 (生 き 抜 く 力)			3～6	0	1	3
合 計			32	32	31	95
特別活動	ホームルーム活動		1	1	1	3
教 育 課 程 に 係 る そ の 他 の 事 項						
卒業までに修得させる単位数			95 単位		卒業に必要な履修と修得の単位数	1 分離している ○ 2 分離していない
学期の区分			○ 1 3学期制 ○ 2 2学期制	学期の区分ごとの単位修得の認定		○ 1 実施している ○ 2 実施していない
1 単位時間の弾力化			○ 1 標準の50分を1単位時間として実施する。 2 標準以外の単位時間を学校が設定して実施する。 [1日の授業時間を()分×()時間で実施] 3 いくつかの単位時間を組み合わせて実施する。 [1週のうち()日間を、1日当たり()分×()時間で実施]と、[1週のうち()日間を、1日当たり()分×()時間で実施]を組み合わせる。 4 その他()			
学校外における学修の単位認定			○ 1 実施している ○ 2 実施していない			
総合的な探究の時間の実施方法			○ 1 週時程に位置付けて実施する。 ○ 2 週時程に位置付けず、年間を通して又は特定の期間に実施する。			
備 考	教科情報の「情報Ⅰ」(2単位)は、教科情報の「SS情報」(2単位)で代替する。 1年の「論理・表現Ⅰ」(2単位)は、「SS英語」(2単位)で代替する。 3年の「KS化学」(2単位)は、2年次に「化学基礎」(2単位)を履修するものとする。 3年の「KS地学」(2単位)は、2年次に「地学基礎」(2単位)を履修するものとする。 2年の「KS物理」及び「KS生物」(2単位)は、3年次も継続履修とする。 ★について「論理国語」を履修した場合は「化学基礎」か「地学基礎」のいずれかを履修するものとする。 「論理国語」を履修しない場合は「化学基礎」を必ず履修し「KS物理」か「KS生物」のいずれかを履修するものとする。 2年の「論理国語」は、3年次も継続履修とする。 ☆について「論理国語」を履修した場合は「倫理」「政治・経済」「数学研究Ⅰ」は必ず履修するものとする。 「数学研究Ⅱ」「音楽表現」「美術表現」「書道表現」「応用英語」から1科目を履修するものとする。 理科については「KS物理」「KS化学」「KS生物」「KS地学」から組合せて4単位を履修するものとする。 北海道釧路江南高等学校で開設されている「教員基礎」を道立高等学校間連携により選択することが可能である。 ※について「KS数学Ⅲ」と「KS数学探究」のいずれかを履修するものとする。 ※名称の前に○を付した教科又は科目は、学校が設定したものである。					

(3) 令和6年度入学者（理数探究科）

A 表

(表 面)

教育局 釧路

北海道釧路湖陵高等学校

全日制課程

学科 理数探究科

第1学年の
学 級 数

1

教科	科目・標準単位数	学年 類型	1 年	2 年	3 年	計
				α β	α β	α β
国語	現代の国語	2	2			2
	言語文化	2	2			2
	論理国語	4				
	文学国語	4		2	2	4
	国語表現	4				
	古典探究	4		2	2	4
地理歴史	地理総合	2	2			2
	地理探究	3		3		0～3
	歴史総合	2	2	3	3	2
	日本史探究	3		3		0～3
	世界史探究	3		3		0～3
	○ゼミナール地理	3			3	0～3
	○発展日本史	3			3	0～3
	○発展世界史	3			3	0～3
	公民	2		2	3	2
	倫理	2				
公民	政治・経済	2				
	○時事問題研究	3			3	0～3
数学	数学Ⅰ	3				
	数学Ⅱ	4				
	数学Ⅲ	3				
	数学A	2				
	数学B	2				
	数学C	2				
理科	科学と人間生活	2				
	物理基礎	2				
	物理	4				
	化学基礎	2				
	化学	4				
	生物基礎	2				
	生物	4				
	地学基礎	2				
	地学	4				
保健体育	体育	7～8	2	2	3	7
	保健	2	1	1		2
芸術	音楽Ⅰ	2	2			0～2
	音楽Ⅱ	2				
	音楽Ⅲ	2				
	美術Ⅰ	2	2			0～2
	美術Ⅱ	2		2		
	美術Ⅲ	2				
	工芸Ⅰ	2				
	工芸Ⅱ	2				
	工芸Ⅲ	2				
	書道Ⅰ	2	2			0～2
外国語	書道Ⅱ	2				
	書道Ⅲ	2				
外国語	英語コミュニケーションⅠ	3	3			3
	英語コミュニケーションⅡ	4		4		4
	英語コミュニケーションⅢ	4			4	4
	論理・表現Ⅰ	2				
	論理・表現Ⅱ	2		2		2
	論理・表現Ⅲ	2			2	2
	○SS英語	2	2			2
家庭	家庭基礎	2	1			1
	家庭総合	4				
情報	情報Ⅰ	2				
	情報Ⅱ	2				
	○SS情報	2	1	1		2
理数	理数探究基礎	1				
	理数探究	2～5				

北海道釧路湖陵高等学校	全日制課程	学科	理数探究科
-------------	-------	----	-------

[illegible]

(4) 令和6年度入学者（文理探究科）

A 表

（表 面）

教育局 釧路

北海道釧路湖陵高等学校 全日制課程

学科 文理探究科

第1学年の
学 級 数

4

教科	科目・標準単位数	学年 類型	1 年	2 年	3 年	計
国語	現代の国語	2	2			2
	言語文化	2	2			2
	論理国語	4		2	2	0～4
	文学国語	4		2	2	4
	国語表現	4				
	古典探究	4		2	2	4
地理歴史	地理総合	2	2			2
	地理探究	3		3		0～3
	歴史総合	2	2			2
	日本史探究	3		3		0～3
	世界史探究	3		3		0～3
	○ゼミナール地理	3			3	0～3
	○発展日本史	3			3	0～3
	○発展世界史	3			3	0～3
公民	公共	2		2		2
	倫理	2			2	0～2
	政治・経済	2			2	0～2
	○時事問題研究	3			3	0～3
数学	数学Ⅰ	3	3			3
	数学Ⅱ	4				
	数学Ⅲ	3				
	数学A	2				
	数学B	2				
	数学C	2				
	○数学研究Ⅰ	2			2	0～2
	○数学研究Ⅱ	2			2	0～2
	○KS数学Ⅰ	2	2			2
	○KS数学Ⅱ	6		6		6
	○KS数学Ⅲ	6			6	0～6
	○KS数学探究	6			6	0～6
理科	科学と人間生活	2				
	物理基礎	2	2	★4		2
	化学基礎	4		2	☆14	※14 0～2
	化学	4				
	生物基礎	2	2			2
	生物	4				
	地学基礎	2		2		0～2
	地学	4				
	○KS物理	2			2	0～2
		5		2	3	0～5
	○KS化学	2			2	0～2
		3			3	
		5			5	0～5
	○KS生物	2			2	0～2
		4			4	0～4
		5		2	3	0～5
	○KS地学	2			2	0～2
保健体育	体育	7～8	2	2	3	7
	保健	2	1	1		2
芸術	音楽Ⅰ	2	2			0～2
	音楽Ⅱ	2				
	音楽Ⅲ	2				
	美術Ⅰ	2	2			0～2
	美術Ⅱ	2				
	美術Ⅲ	2				
	工芸Ⅰ	2				
	工芸Ⅱ	2				
	工芸Ⅲ	2				
	書道Ⅰ	2	2			0～2
	書道Ⅱ	2				
	書道Ⅲ	2				
芸術	○音楽表現	2			2	0～2
	○美術表現	2			2	0～2
	○書道表現	2			2	0～2

A 表

(裏面)

北海道釧路湖陵高等学校

全日制課程

学科

文理探究科

教科	科目・標準単位数	学年	1 年	2 年	3 年	計
		類型				
外国語	英語コミュニケーションⅠ	3	3			3
	英語コミュニケーションⅡ	4		4		4
	英語コミュニケーションⅢ	4			4	4
	論 理 ・ 表 現 Ⅰ	2				
	論 理 ・ 表 現 Ⅱ	2		2		2
	論 理 ・ 表 現 Ⅲ	2			2	2
	○ 応 用 英 語	2			2	0～2
	○ S S 英 語	2	2			2
家庭	家 庭 基 礎	2	2			2
	家 庭 総 合	4				
情報	情 報 Ⅰ	2				
	情 報 Ⅱ	2				
	○ S S 情 報	2		2		2
理数	理 数 探 究 基 礎	1				
	理 数 探 究	2～5				
○ 総合	○ K Q Ⅰ	1	1			1
	○ K Q Ⅱ	1		1		1
各学科に共通する各教科・科目の計			29	30	30	89
主として専門学科において開設される各教科・科目の計			0	0	0	0
学校設定教科に関する科目の計			1	1	0	2
総合的な探究の時間 (生 き 抜 く 力)			3～6	2	1	4
合 計			32	32	31	95
特別活動	ホームルーム活動		1	1	1	3
教 育 課 程 に 係 る そ の 他 の 事 項						
卒業までに修得させる単位数			96 単位		卒業に必要な履修と修得の単位数	1 分離している ○ 2 分離していない
学期の区分		○	1 3学期制 2 2学期制		学期の区分ごとの単位修得の認定	○ 1 実施している 2 実施していない
1 単位時間の弾力化		○	1 標準の50分を1単位時間として実施する。 2 標準以外の単位時間を学校が設定して実施する。 3 [1日の授業時間を()分×()時間で実施] いくつかの単位時間を組み合わせて実施する。 4 [1週のうち()日間を、1日当たり()分×()時間で実施]と、[1週のうち()日間を、1日当たり()分×()時間で実施]を組み合わせる。 その他()			
学校外における学修の単位認定		○	1 実施している 2 実施していない			
総合的な探究の時間の実施方法		○	1 週時程に位置付けて実施する。 2 週時程に位置付けず、年間を通して又は特定の期間に実施する。			
備 考			1年の「情報Ⅰ」(2単位)は、教科情報の「SS情報」(2単位)で代替する。 1年の「論理・表現Ⅰ」(2単位)は、「SS英語」(2単位)で代替する。 3年の「KS化学」(2単位)は、2年次に「化学基礎」(2単位)を履修するものとする。 3年の「KS地学」(2単位)は、2年次に「地学基礎」(2単位)を履修するものとする。 2年の「KS物理」及び「KS生物」(2単位)は、3年次も継続履修とする。 ★について「論理国語」を履修した場合は「化学基礎」か「地学基礎」のいずれかを履修するものとする。 「論理国語」を履修しない場合は「化学基礎」を必ず履修し「KS物理」か「KS生物」のいずれかを履修するものとする。 2年の「論理国語」は、3年次も継続履修とする。 ☆について「論理国語」を履修した場合は「倫理」「政治・経済」「数学研究Ⅰ」は必ず履修するものとする。 「数学研究Ⅱ」「音楽表現」「美術表現」「書道表現」「応用英語」から1科目を履修するものとする。 理科については「KS物理」「KS化学」「KS生物」「KS地学」から組合せて4単位を履修するものとする。 北海道釧路江南高等学校で開設されている「教員基礎」を道立高等学校間連携により選択することが可能である。 ※について「KS数学Ⅲ」と「KS数学探究」のいずれかを履修するものとする。 ※名称の前に○を付した教科又は科目は、学校が設定したものである。			

(5) 令和5年度入学者（理数科）

A 表

(表 面)

教育局 釧路

北海道釧路湖陵高等学校 全日制課程

学科 理数科

第1学年の
学 級 数

1

教科	学年		1 年	2 年	3 年	計
	科目・標準単位数	類型		α β	α β	α β
国語	現代の国語	2	2			2
	言語文化	2	2			2
	論理国語	4				
	文学国語	4		2	2	4
	国語表現	4				
	古典探究	4		2	2	4
地理歴史	地理総合	2	2			2
	地理探究	3		3		0～3
	歴史総合	2	2	3		2
	日本史探究	3		3		0～3
	世界史探究	3		3		0～3
	○ゼミナール地理	3			3	0～3
	○発展日本史	3			3	0～3
	○発展世界史	3			3	0～3
	公民	2		2	3	2
公民	倫理	2				
	政治・経済	2				
	○時事問題研究	3			3	0～3
	数学Ⅰ	3				
	数学Ⅱ	4				
	数学Ⅲ	3				
数学	数学A	2				
	数学B	2				
	数学C	2				
理科	科学と人間生活	2				
	物理基礎	2				
	物理	4				
	化学基礎	2				
	化学	4				
	生物基礎	2				
	生物	4				
	地学基礎	2				
	地学	4				
保健体育	体育	7～8	2	2	3	7
	保健	2	1	1		2
芸術	音楽Ⅰ	2	2			0～2
	音楽Ⅱ	2				
	音楽Ⅲ	2				
	美術Ⅰ	2	2			0～2
	美術Ⅱ	2		2		
	美術Ⅲ	2				
	工芸Ⅰ	2				
	工芸Ⅱ	2				
	工芸Ⅲ	2				
	書道Ⅰ	2	2			0～2
外国語	書道Ⅱ	2				
	書道Ⅲ	2				
	英語コミュニケーションⅠ	3	3			3
	英語コミュニケーションⅡ	4		4		4
	英語コミュニケーションⅢ	4			4	4
	論理・表現Ⅰ	2				
	論理・表現Ⅱ	2		2		2
家庭	論理・表現Ⅲ	2			2	2
	○S S 英語	2	2			2
情報	家庭基礎	2	1			1
	家庭総合	4				
理数	情報Ⅰ	2				
	情報Ⅱ	2				
理数	理数探究基礎	1				
	理数探究	2～5				

A 表

(裏面)

北海道釧路湖陵高等学校

全日制課程

学科

理数科

教科	科目・標準単位数	学年 類型	1 年	2 年		3 年		計	
				α	β	α	β	α	β
理数	理数数学Ⅰ	5～9							
	理数数学Ⅱ	8～12							
	理数数学特論	3～8							
	理数物理	3～10							
	理数化学	3～10							
	理数生物	3～10							
	理数地学	3～10							
	○SS理数数学Ⅰ	5	5					5	
	○SS理数数学Ⅱ	11		5		6	6	11	11
	○SS物理	6		2		4		6	
○SS化学	6	2	2	2	2	2	6	6	
○SS生物	6	2	2	2	2	2	6	6	
○KCS	○KCS基礎	3	3					3	
	○KCS探究	2		2				2	
	○KCS発展	1				1		1	
各学科に共通する各教科・科目の計			19	18		16		53	
主として専門学科において開設される各教科・科目の計			12	13		15		40	
学校設定教科に関する科目の計			0	0		0		0	
総合的な探究の時間 (生き抜く力)			3～6	0	0	0		0	
合 計			31	31		31		93	
特別活動	ホームルーム活動		1	1		1		3	
教育課程に係るその他の事項									
卒業までに修得させる単位数			93 単位			卒業に必要な履修と修得の単位数		1 分離している ○ 2 分離していない	
学期の区分			○ 1 3学期制 2 2学期制				学期の区分ごとの 単位修得の認定		○ 1 実施している 2 実施していない
1 単位時間の弾力化			1 標準の50分を1単位時間として実施する。 2 標準以外の単位時間を学校が設定して実施する。 [1日の授業時間を()分×()時間で実施] 3 いくつかの単位時間を組み合わせて実施する。 [1週のうち()日間を、1日当たり()分×()時間で実施]と、[1週のうち()日間を、1日当たり()分×()時間で実施]を組み合わせて実施する。 4 その他()						
学校外における学修の単位認定			○ 1 実施している (①・②・③・④・⑤・⑥・⑦・⑧) 2 実施していない						
総合的な探究の時間の実施方法			○ 1 週時程に位置付けて実施する。 2 週時程に位置付けず、年間を通して又は特定の期間に実施する。						
備 考			「総合的な探究の時間」(3単位)は、「理数探究基礎」(1単位)、「理数探究」(2単位)で代替する。 1年の「理数探究基礎」(1単位)は、教科KCSの「KCS基礎」(3単位)で代替する。 1年の「論理・表現Ⅰ」(2単位)は、「SS英語」(2単位)で代替する。 2年の「理数探究」(1単位)は、教科KCSの「KCS探究」(2単位)で代替する。 3年の「理数探究」(1単位)は、教科KCSの「KCS発展」(1単位)で代替する。 「情報Ⅰ」(2単位)は、教科KCSの「KCS基礎」(3単位)、「KCS探究」(2単位)で代替する。 「家庭基礎」(1単位)は、教科KCSの「KCS基礎」(3単位)で代替する。 「理数数学Ⅰ」(5～9単位)は、教科理数の「SS理数数学Ⅰ」(5単位)で代替する。 「理数数学Ⅱ」(8～12単位)は教科理数の「SS理数数学Ⅱ」(11単位)で代替する。 「理数物理」(3～10単位)は教科理数の「SS物理」(6単位)で代替する。 「理数化学」(3～10単位)は教科理数の「SS化学」(6単位)で代替する。 「理数生物」(3～10単位)は教科理数の「SS生物」(6単位)で代替する。 ○を付した科目は、SSHの研究開発に係る科目である。						

(6) 令和5年度入学者（普通科）

A 表

(表 面)

教育局 釧路

北海道釧路湖陵高等学校

全日制課程

学科 普通科

第1学年の
学 級 数

5

教科	科目・標準単位数	学年 類型	1 年	2 年		3 年			計		
				文型	理型	文型	理型 α	理型 β	文型	理型 α	理型 β
国語	現代の国語	2	2						3	3	
	言語文化	2	2						2	2	
	論理国語	4		2		2			4		
	文学国語	4		2	2	2	2		4	4	
	国語表現	4									
	古典探究	4		2	2	2	2		4	4	
地理歴史	地理総合	2	2						2	2	
	地理探究	3		3	3				0~3	0~3	
	歴史総合	2	2						2	2	
	日本史探究	3		3	3				0~3	0~3	
	世界史探究	3		3	3				0~3	0~3	
	○ゼミナール地理	3				3	3		0~3	0~3	
	○発展日本史	3				3	3		0~3	0~3	
	○発展世界史	3				3	3	3	0~3	0~3	
	公民	2		2	2				2	2	
公民	倫理	2				2			2		
	政治・経済	2				2			2		
	○時事問題研究	3					3			0~3	
	数学 I	3	3						3	3	
数学	数学 II	4									
	数学 III	3									
	数学 A	2									
	数学 B	2									
	数学 C	2									
	○数学研究 I	2				2			2		
	○数学研究 II	2				2			0~2		
	○KS数学 I	2	2						2	2	
	○KS数学 II	6		6	6				6	6	
	○KS数学 III	6					6			0~6	
理科	○KS数学探究	6						6		0~6	
	科学と人間生活	2									
	物理基礎	2	2						2	2	
	物理	4									
	化学基礎	2		2	2				0~2	2	
	化学	4									
	生物基礎	2	2		2				2	2	
	生物	4									
	地学基礎	2		2					0~2		
	地学	4									
保健体育	○KS物理	2~5			2	2	3		0~2	0~5	
	○KS化学	2~5			2	2	4	5	0~2	5	
	○KS生物	2~5			2	4	2	3	0~4	0~5	
	○KS地学	2				2			0~2		
	体育	7~8	2	2	2	3	3		7	7	
芸術	保健	2	1	1	1				2	2	
	音楽 I	2	2						0~2	0~2	
	音楽 II	2									
	音楽 III	2									
	美術 I	2	2						0~2	0~2	
	美術 II	2									
	美術 III	2									
	工芸 I	2									
	工芸 II	2									
	工芸 III	2									
	書道 I	2	2						0~2	0~2	
	書道 II	2									
	書道 III	2									
	○音楽表現	2				2			0~2		
	○美術表現	2				2			0~2		
	○書道表現	2				2			0~2		

A 表

(裏面)

北海道釧路湖陵高等学校	全日制課程	学科	普通科
-------------	-------	----	-----

教科	科目・標準単位数	学年	2年		3年		計			
		1年	文型	理型	文型	理型 α	理型 β	文型	理型 α	理型 β
外国語	英語コミュニケーションⅠ	3	3					3	3	
	英語コミュニケーションⅡ	4		4				4	4	
	英語コミュニケーションⅢ	4				4	4	4	4	
	論理・表現Ⅰ	2								
	論理・表現Ⅱ	2		2				2	2	
	論理・表現Ⅲ	2				2	2	2	2	
	○応用英語	2				2		0～2		
家庭	○SS英語	2	2					2	2	
	家庭基礎	2	2					2	2	
情報	家庭総合	4								
	情報Ⅰ	2								
	情報Ⅱ	2								
理数	○SS情報	2		2				2	2	
	理数探究基礎	1								
総合	理数探究	2～5								
	○KQⅠ	2	2					2	2	
	○KQⅡ	1		1	1			1	1	
各学科に共通する各教科・科目の計		29	30	30	30	30		89	89	
主として専門学科において開設される各教科・科目の計		0	0	0	0	0		0	0	
学校設定教科に関する科目の計		2	1	1	0	0		3	3	
総合的な探究の時間 (生き抜く力)		3～6	1	1	1	1	1	3	3	
合 計		32	32	32	31	31		95	95	
特別活動	ホームルーム活動	1	1	1	1	1	1	3	3	

教 育 課 程 に 係 る そ の 他 の 事 項

卒業までに修得させる単位数	96 単位	卒業に必要な履修と修得の単位数	1 分離している ○ 2 分離していない
学期の区分	○ 1 3学期制 ○ 2 2学期制	学期の区分ごとの単位修得の認定	○ 1 実施している 2 実施していない
1 単位時間の弾力化	○ 1 標準の50分を1単位時間として実施する。 2 標準以外の単位時間を学校が設定して実施する。 [1日の授業時間を()分×()時間で実施] 3 いくつかの単位時間を組み合わせて実施する。 [1週のうち()日間を、1日当たり()分×()時間で実施]と、[1週のうち()日間を、1日当たり()分×()時間で実施]を組み合わせて実施する。 4 その他()		
学校外における学修の単位認定	○ 1 実施している (①・②・③・④・⑤・⑥・⑦・⑧) 2 実施していない		
総合的な探究の時間の実施方法	○ 1 週時程に位置付けて実施する。 2 週時程に位置付けず、年間を通して又は特定の期間に実施する。		
備考	1年の「情報Ⅰ」(2単位)は、教科情報の「SS情報」(2単位)で代替する。 1年の「論理・表現Ⅰ」(2単位)は、「SS英語」(2単位)で代替する。 3年文型の「KS化学」(2単位)は、2年次に「化学基礎」(2単位)を履修するものとする。 3年文型の「KS地学」(2単位)は、2年次に「地学基礎」(2単位)を履修するものとする。 2年理型の「KS物理」及び「KS生物」(2単位)は、3年次も継続履修とする。		

(7) 令和7年度学年別（理数探究科・理数科）

B 表

(表 面)

教育局 釧路

北海道釧路湖陵 高等学校 全日制課程

学科 理数探究科・理数科

学級数	第1学年	1
	第2学年	1
	第3学年	1

教科	学年		1 年	2 年	3 年
	科目・標準単位数	類型		α β	α (医進類型含む) β
国語	現代の国語	2	2		
	言語文化	2	2		
	論理国語	4			
	文学国語	4		2	2
	国語表現	4			
	古典探究	4		2	2
地理歴史	地理総合	2	2		
	地理探究	3		3	
	歴史総合	2	2	3	
	日本史探究	3		3	
	世界史探究	3		3	
	○ゼミナール地理	3			3
	○発展日本史	3			3
	○発展世界史	3			3
公民	公共倫理	2		2	3
	政治・経済	2			
	○時事問題研究	2			3
数学	数学Ⅰ	3			
	数学Ⅱ	4			
	数学Ⅲ	3			
	数学A	2			
	数学B	2			
	数学C	2			
理科	科学と人間生活	2			
	物理基礎	2			
	物理	4			
	化学基礎	2			
	化学	4			
	生物基礎	2			
	生物	4			
	地学基礎	2			
	地学	4			
保健体育	体育	7～8	2	2	3
	保健	2	1	1	
芸術	音楽Ⅰ	2	2		
	音楽Ⅱ	2			
	音楽Ⅲ	2			
	美術Ⅰ	2	2		
	美術Ⅱ	2		2	
	美術Ⅲ	2			
	工芸Ⅰ	2			
	工芸Ⅱ	2			
	工芸Ⅲ	2			
	書道Ⅰ	2	2		
	書道Ⅱ	2			
	書道Ⅲ	2			
外国語	英語コミュニケーションⅠ	3	3		
	英語コミュニケーションⅡ	4		4	
	英語コミュニケーションⅢ	4			4
	論理・表現Ⅰ	2			
	論理・表現Ⅱ	2		2	
	論理・表現Ⅲ	2			2
	○SS英語	2	2		
家庭	家庭基礎	2	1		
	家庭総合	4			
情報	情報Ⅰ	2			
	情報Ⅱ	2			
	○SS情報	2	1	1	
理数	理数探究基礎	1			
	理数探究	2～5			

B 表

(裏面)

北海道釧路湖陵

高等学校

全日制課程

学科

理数探究科・理数科

教科	学年		1 年	2 年		3 年	
	科目・標準単位数	類型		α	β	α (医進類型含む)	β
理数	理数探究基礎	1					
	理数探究	2～5					
	理数数学Ⅰ	5～9					
	理数数学Ⅱ	8～12					
	理数数学特論	3～8					
	理数物理	3～10					
	理数化学	3～10					
	理数生物	3～10					
	理数地学	3～10					
	○SS理数数学Ⅰ	5	5				
	○SS理数数学Ⅱ	11		5		6	6
	○SS物理	6			2		4
○SS化学	6	2	2	2	2	2	
○SS生物	6	2	2	2	2	2	
○KCS	○KCS基礎	3	3				
	○KCS探究	2		2			
	○KCS発展	1				1	
各学科に共通する各教科・科目の計			20	19		16	
主として専門学科において開設される各教科・科目の計			9	11		14	
学校設定教科に関する科目の計			3	2		1	
総合的な探究の時間 (生き抜く力)		3～6	0	0		0	
合 計			32	32		31	
特別活動	ホームルーム活動		1	1		1	
備 考	1年の「理数探究基礎」(1単位)は、教科KCSの「KCS基礎」(3単位)で代替する。 1年の「論理・表現Ⅰ」(2単位)は、「SS英語」(2単位)で代替する。 2年の「理数探究」(2単位)は、教科KCSの「KCS探究」(2単位)で代替する。 2年の「総合的な探究の時間」(1単位)は、減単とする。 3年の「総合的な探究の時間」(1単位)は、教科KCSの「KCS発展」(1単位)で代替する。 「情報Ⅰ」2単位は、教科KCSの「KCS基礎」(3単位)、「KCS探究」(2単位)で代替する。 「家庭基礎」(1単位)は、教科KCSの「KCS基礎」(3単位)で代替する。 「理数数学Ⅰ」(5～9単位)は、教科理数の「SS理数数学Ⅰ」(5単位)で代替する。 「理数数学Ⅱ」(8～12単位)は教科理数の「SS理数数学Ⅱ」(11単位)で代替する。 「理数化学」(3～10単位)は教科理数の「SS化学」(6単位)で代替する。 「理数生物」(3～10単位)は教科理数の「SS生物」(6単位)で代替する。 「理数物理」(3～10単位)は教科理数の「SS物理」(6単位)で代替する。 北海道釧路江南高等学校で開設されている「教員基礎」を道立高等学校間連携により選択することが可能である。 ※名称の前に○を付した教科又は科目は、学校が設定したものである。						

(8) 令和7年度学年別（文理探究科・普通科）

B 表

（表面）

教育局 釧路

北海道釧路湖陵 高等学校 全日制課程

学科 文理探究科・普通科

学級数	第1学年	4
	第2学年	4
	第3学年	5

教科	学年		1 年	2 年	3 年	
	科目・標準単位数	類型			文型	理型
国語	現代の国語	2	2			
	言語文化	2	2			
	論理国語	4		2	2	
	文学国語	4		2	2	2
	国語表現	4				
	古典探究	4		2	2	2
地理歴史	地理総合	2	2			
	地理探究	3		3		
	歴史総合	2	2	3		
	日本史探究	3		3		
	世界史探究	3		3		
	○ゼミナール地理	3			3	3
	○発展日本史	3			3	3
	○発展世界史	3			3	3
						3
公民	公共倫理	2		2		
	政治・経済	2			2	
	○時事問題研究	2			2	
						3
数学	数学Ⅰ	3	3			
	数学Ⅱ	4				
	数学Ⅲ	3				
	数学Ⅳ	2				
	数学Ⅴ	2				
	○数学研究Ⅰ	2			2	
	○数学研究Ⅱ	2			2	
	○KS数学Ⅰ	2	2			
	○KS数学Ⅱ	6		6		
	○KS数学Ⅲ	6				6
	○KS数学探究	6				6
理科	科学と人間生活	2				
	物理基礎	2	2	★4		
	物理	4				
	化学基礎	2		2		
	化学	4				
	生物基礎	2	2			
	生物	4			2	
	地学基礎	2		2		
	地学	4				
	○KS物理	2			2	
	○KS物理	5		2		3
	○KS化学	2			2	4
	○KS化学	3				3
	○KS化学	5				5
	○KS生物	2			2	
	○KS生物	4			4	
	○KS生物	5		2		3
	○KS地学	2			2	
保健体育	体育	7～8	2	2	3	3
	保健	2	1	1		

B 表

(裏面)

北海道釧路湖陵

高等学校

全日制課程

学科

文理探究科・普通科

教科	学年		1 年	2 年	3 年	
	科目・標準単位数	類型			文型	理型
芸術	音楽Ⅰ	2	2			
	音楽Ⅱ	2				
	音楽Ⅲ	2				
	美術Ⅰ	2	2			
	美術Ⅱ	2		2		
	美術Ⅲ	2				
	工芸Ⅰ	2				
	工芸Ⅱ	2				
	工芸Ⅲ	2				
	書道Ⅰ	2	2			
	書道Ⅱ	2				
	書道Ⅲ	2				
	○音楽表現	2			2	
	○書道表現	2			2	
	○美術表現	2			2	
外国語	英語コミュニケーションⅠ	3	3			
	英語コミュニケーションⅡ	4		4		
	英語コミュニケーションⅢ	4			4	4
	論理・表現Ⅰ	2				
	論理・表現Ⅱ	2		2		
	論理・表現Ⅲ	2			2	2
	○応用英語	2			2	
家庭	○SS英語	2	2			
	家庭基礎	2	2			
	家庭総合	4				
	情報Ⅰ	2				
情報	情報Ⅱ	2				
	○SS情報	2		2		
理数	理数探究基礎	1				
	理数探究	2～5				
○総合	○Koryo Quest	3	3			
	○K Q Ⅱ	1		1		
各学科に共通する各教科・科目の計			29	30	30	30
主として専門学科において開設される各教科・科目の計			0	0	0	0
学校設定教科に関する科目の計			3	1	0	0
総合的な探究の時間 (生き抜く力)			3～6	0	1	1
合 計			32	32	31	31
特別活動	ホームルーム活動		1	1	1	1
備考	1年の「情報Ⅰ」(2単位)は、教科情報の「SS情報」(2単位)で代替する。 1年の「論理・表現Ⅰ」(2単位)は、「SS英語」(2単位)で代替する。 2年の「情報Ⅰ」2単位は、教科情報の「SS情報」(2単位)で代替する。 2年の「地理探究」及び「日本史探究」及び「世界史探究」(3単位)は、3年次も継続履修とする。 ★について「論理国語」を履修した場合は「化学基礎」か「地学基礎」のいずれかを履修するものとする。 「論理国語」を履修しない場合は「化学基礎」を必ず履修し「KS物理」か「KS生物」のいずれかを履修するものとする。 3年文型の「KS化学」(2単位)は、2年次に「化学基礎」(2単位)を履修するものとする。 3年文型の「KS地学」(2単位)は、2年次に「地学基礎」(2単位)を履修するものとする。 北海道釧路江南高等学校で開設されている「教員基礎」を道立高等学校間連携により選択することが可能である。 ※名称の前に○を付した教科又は科目は、学校が設定したものである。					

8 時 程 表

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	定期試験	土曜授業
職員打合せ	8 : 15～						
生徒登校	～ 8 : 30						
S H R	8 : 30～ 8 : 40	8 : 30～ 8 : 40	8 : 30～ 8 : 40	8 : 30～ 8 : 40	8 : 30～ 8 : 40	8 : 30～ 8 : 40	8 : 30～ 8 : 40
1 校 時	8 : 45～ 9 : 35	8 : 45～ 9 : 35	8 : 45～ 9 : 35	8 : 45～ 9 : 35	8 : 45～ 9 : 35	8 : 50～ 9 : 40	8 : 45～ 9 : 35
2 校 時	9 : 45～ 10 : 35	9 : 45～ 10 : 35	9 : 45～ 10 : 35	9 : 45～ 10 : 35	9 : 45～ 10 : 35	9 : 55～ 10 : 45	9 : 45～ 10 : 35
3 校 時	10 : 45～ 11 : 35	10 : 45～ 11 : 35	10 : 45～ 11 : 35	10 : 45～ 11 : 35	10 : 45～ 11 : 35	11 : 00～ 11 : 50	10 : 45～ 11 : 35
4 校 時	11 : 45～ 12 : 35	11 : 45～ 12 : 35	11 : 45～ 12 : 35	11 : 45～ 12 : 35	11 : 45～ 12 : 35		11 : 45～ 12 : 35
昼 休 み	12 : 35～ 13 : 15	12 : 35～ 13 : 15	12 : 35～ 13 : 15	12 : 35～ 13 : 15	12 : 35～ 13 : 15		
予 鈴	13 : 15	13 : 15	13 : 15	13 : 15	13 : 15		
5 校 時	13 : 20～ 14 : 10	13 : 20～ 14 : 10	13 : 20～ 14 : 10	13 : 20～ 14 : 10	13 : 20～ 14 : 10		
6 校 時	14 : 20～ 15 : 10	14 : 20～ 15 : 10	14 : 20～ 15 : 10	14 : 20～ 15 : 10	14 : 20～ 15 : 10		
7 校 時		15 : 20～ 16 : 10		15 : 20～ 16 : 10			
S H R	15 : 10～ 15 : 15	16 : 10～ 16 : 15	15 : 10～ 15 : 15	16 : 10～ 16 : 15	15 : 10～ 15 : 15	12 : 00～ 12 : 50	12 : 35～ 12 : 40
清 掃	15 : 15～ 15 : 25	16 : 15～ 16 : 25	15 : 15～ 15 : 25	16 : 15～ 16 : 25	15 : 15～ 15 : 25	12 : 50～ 13 : 00	12 : 40～ 12 : 50

9 学年・分掌・委員会等

【HR担任】

学年	主任	副主任	学 科	理数探究科	文理探究科					学年付
			クラス	1 組	2 組	3 組	4 組	5 組		
1	大川原	市川	H R 担 任	片山	田口	市川	住本	大川原	三坂	
			HR副担任	玉森	高坂	竹内	對馬	町田	兼子	
2	多田	田宮	H R 担 任	板橋	上内	中山	多田	田宮	百武	
			HR副担任	大井	小嶋	関山	亀山	安田	及川	

学年	主任	副主任	学 科	理数科	普通科					学年付
			クラス	1組	2組	3組	4組	5組	6組	
3	山木	五十嵐	HR担任	有野	木全	小川	宮城	五十嵐	松澤	岡田
			HR副担任	山形	植地	石田	弥田	高橋(容)	池端	菊谷

【校務分掌】

分掌名	部 長	副部長	部 員	人数
総 務	池田	亀山	兼子 五十嵐 有野 石田	6
教 務	小華和	高橋(容)	田口 竹内 三坂 百武 小嶋 及川 山木 池端	10
生徒指導	大川	植地	對馬 高坂 板橋 安田 松澤	7
進路指導	浅野	玉森	市川 住本 中山 関山 小川 宮城 弥田 菊谷	10
保 健	笹木	大川原	田宮 山形 岡田	5
SSH推進	高橋(翔)	大井	片山 町田 多田 上内 木全	7
理 数 科	高橋(翔)	有野	片山 板橋	4

* 主幹教諭 笹木、教務主任 小華和、生徒指導主事 大川、進路指導主事 浅野、保健主事 笹木

【教科主任】

教 科	国 語	地歴公民	数 学	理 科	保健体育	芸 術	家 庭	外国語	情 報
主 任	田宮	宮城	植地	木全	多田	高坂	中山	高橋(翔)	百武

【国や北海道教育委員会等から指定を受けている事業等】

事業主体	指 定 事 業	担 当 教 諭 名
国(文科省等)	スーパーサイエンスハイスクール事業	SSH推進部長：高橋(翔)
道 教 委	地域医療を支える人づくりプロジェクト事業 医進類型指定校	教務部長：小華和
	北海道立高等学校地域連携特例校・地域連携 協力校（地域連携特例校：阿寒高等学校）	教務部長：小華和 進路指導部長：浅野 生徒指導部生徒会：對馬

【研究会当番校】

名 称	日 程	期 間	主担当	業務担当教諭等(後日命課)
釧路管内高等学校教育研究会事務局	未定	R6、R7	副校長	副校長 教頭
釧路管内高等学校教育研究会生徒指導部会	6月	R6、R7	生徒指導部	副校長 教頭 生徒指導部員
北海道高等学校理科研究会釧路支部事務局	6月	R7	理科	理科(研究会会員)

【当番校】

団体・分野	日 程	会 場	主担当	業務担当教諭等
ハンドボール・高体連支部大会	5月19～21日	ウインドヒルくしろスーパーアリーナ	高橋(容)	副校長 教頭 百武 兼子 事務長
ソフトテニス・高体連支部大会	5月20～22日	釧路市民テニスコート	池田	副校長 教頭 及川 笹木 岡田 事務長
放送・高文連全道大会	6月17～20日	コーチャンフォー釧路文化ホール まなぼとち幣舞	片山	副校長 教頭 百武 大川原 兼子 及川 菊谷 事務長
演劇・高文連全道大会	10月1～3日	コーチャンフォー釧路文化ホール 湖陵高校	小華和	後日命課

【委員会】

委員会名	委員長	部 員
カリキュラム	教務部長	副校長(教頭) 教務部副部長 進路指導部長 S S H推進部長 理数科主任 各学年主任
業 者 選 考	教頭	事務長 総務部長 各学年主任(但し宿泊研修、見学旅行、BYODについて) 保健体育科主任(但し指定ジャージについて) 情報委員会担当者(但しBYODについて)
教科書採択	教務部長	副校長 各教科主任、教務教科書担当
入 学 者 選 抜	教務部長	副校長(教頭) 3学年団 理数探究・理数科担任 教務部員(山木 百武) 事務(2名)
学 校 保 健	保健部長	教頭 教務部長 生徒指導部長 該当学年主任 養護教諭 産業医
サ ポ ー ト	保健部長	教頭 特別支援教育コーディネーター、教務部員(各学年1名)、該当生徒のH R担任、各学年主任、保健部、養護教諭
衛 生(全定)	教頭(全)	教頭(定) 保健部長 養護教諭(全定) 事務主任 産業医
情 報(全定)	全日制情報科教諭	教頭(全定) 1学年:田口 2学年:百武 3学年:山木 事務主任 定時制情報科教諭
医 進 類 型	教務部長	副校長 進路指導部長 各学年理数探究・理数科担任 数学科:浅野 理科:玉森 事務担当1名
S S H 推 進	S S H推進部長	副校長 教頭 S S H推進部員 理数科主任 各教科主任 S S H学校設定科目の教科担任 S S H支援員
地域連携特例校 地域連携協力校	教頭	教務部長 生徒指導部生徒会担当:對馬
教室のあり方 検討(全定)	教頭(全)	教頭(定) 総務部長 教務部長(定) 生徒指導部長 事務長
い じ め 防 止 等 対 策	教頭(全)	生徒指導部長 保健部長 該当学年主任 該当H R担任 定時制(教頭 生徒指導部長 該当学年主任)
校内推薦選考	進路指導部長	教頭 3学年主任 宮城 小川 該当H R担任
校則見直し検討	教頭	生徒指導部長 各学年主任 生徒指導部生徒会担当 他概ね2名(公募)
学 校 パ ン フ レ ッ ト 製 作	副校長	概ね5名(公募)
推 薦 入 試 問 題 作 成	副校長	教頭 他概ね4名(公募)
文理研究科推進	教務部長	副校長 教頭 S S H推進部長 進路指導部長 S S H推進部員 教務部員
推薦入試検討	副校長	分掌部長及び学年主任(この委員会の中に推薦入試問題作成委員会を置く)
学 校 広 報	副校長	教頭、総務部、教務部、生徒指導部(生徒会)、進路指導部、S S H推進部

【専門委員等】

高体連校内理事	多 田
バレーボール道専門委員	有 野
ハンドボール道専門委員	高橋(容)
弓道全道専門委員	多 田
登山道専門委員	玉 森

高文連校内理事	小華和
新聞支部専門委員	小華和
放送支部専門員	片山
国際交流支部専門委員	高橋(翔)

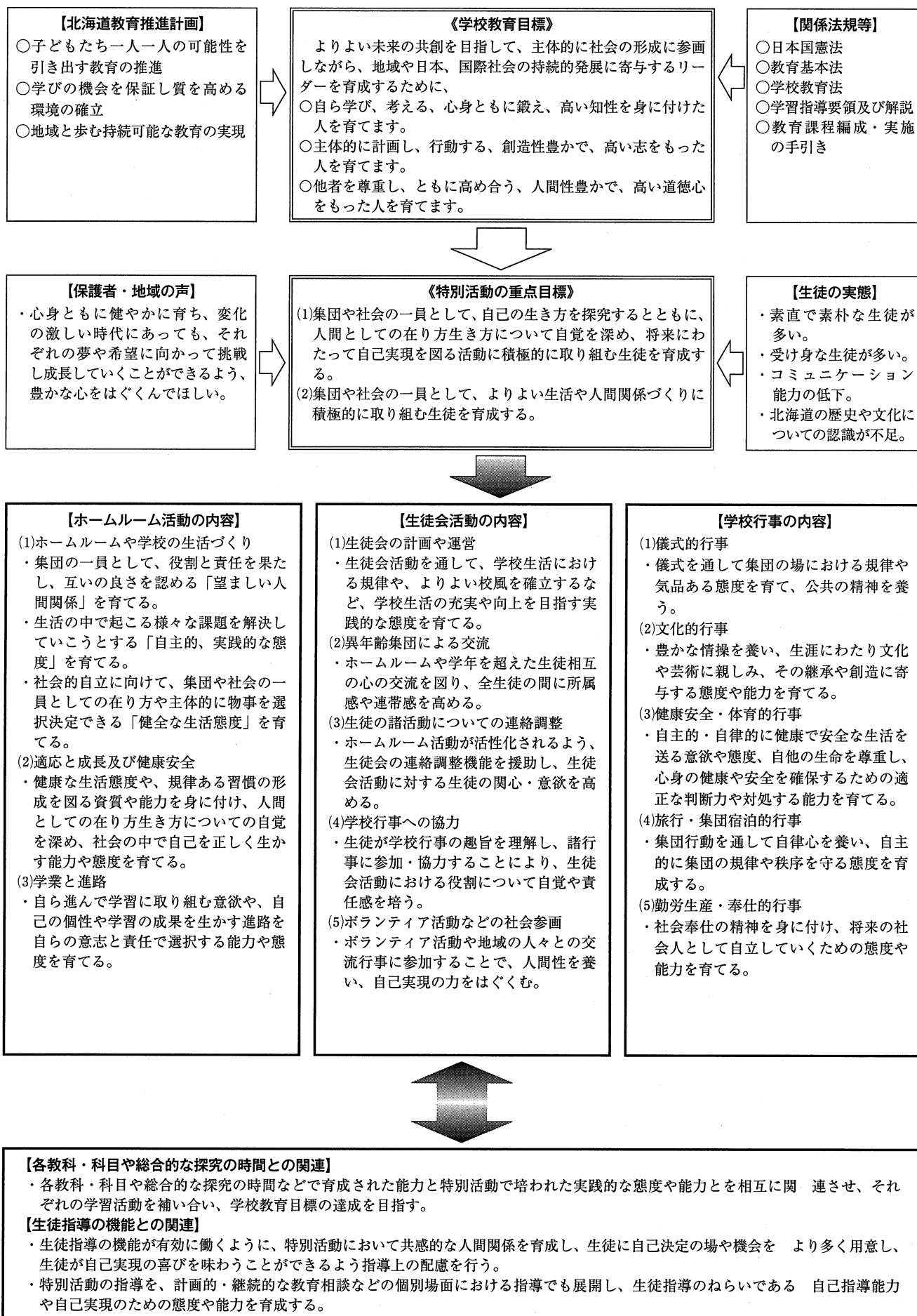
10 分掌・学年の計画

分掌 学年	中期目標 (◎) と今年度の目標	実践計画	評 価 の 観 点
教 務 部 (学 習 指 導)	◎主体的に学ぶ力を育成し学力の向上を図る ○生徒の学習状況を客観的に評価する観点別学習状況の評価の改善・充実に努める。 ○教科横断的な学習の充実に努める。 ○ICTの活用について研修を深める。 ○教育課程の適切な実施とその評価・改善・充実に努める。 ○校務支援システムの効果的な運用を図る。 ○学校の実態や社会の情勢に応じて教務内規を改定する。	・観点別学習評価が適切に行われているかについて、前期及び年度終了時に各教科での検証を行い、その結果を全体で共有する。 ・教育課題を把握し、教科科目を越えて連携した授業の実施を促すとともに、各種研修会への積極的な参加を促し、その研修内容の共有化を図る。 教科横断的な授業の機会を設定する。 ・ICTを活用した授業研究を推進し、指導法の向上とその定着につとめる。そのために「シラバス」「授業公開」「互見授業」「授業評価アンケート」による授業研究を推進する。 ・カリキュラム委員会を定期的に開催すると共に、授業実施時数を適切に管理し。授業時数の確保に努める。 ・校務支援システムの効果的かつ遠隔な運用について研究し、職員に適切な情報を提供する。 ・現状に即した教務内規の見直し内容を検討する。	○シラバスを用いながら前期及び学年末の各教科における学習評価の検証を行うことができたか。 ○公開授業週間を利用することにより、他教科が授業参加する機会を設定することができたか。 ○授業での活用を促すとともに、会議等校務の場面で積極的に運用することができたか。 ○カリキュラム委員会において、教育課程の検証・報告が行われたか。 ○校務支援システムのスムーズな運用ができたか。 ○教務内規の改定が適切であったか。
生 徒 指 導 部 (生 徒 指 導)	◎自律性や社会性を培い、責任を持って行動できる個性ある生徒の育成 ○生徒の社会的資質や行動力等の向上を目指した指導の充実に努めるとともに、「生徒心得」の改善・充実に取り組む。 『指導すべきこと』と『考えさせるべきこと』の両方の視点を忘れず、生徒指導にあたることで、規範意識の向上や基本的生活習慣を育み、自己肯定感や自己指導力のある生徒の育成に努める。(社会的資質や行動力等の向上) ○いじめの未然防止と望ましい人間関係の構築に向けて、教職員間の情報共有を密に行い、人間関係の理解を深める。(いじめの未然防止と望ましい人間関係の形成) ○校内指導体制のさらなる充実に目指すとともに、保護者・地域・関係諸機関との連携を深め、生徒一人ひとりの個性の伸長を図る。(教職員の生徒理解の深化)	・学校全体で、気持ちの良い挨拶や返事の重要性について指導する。 ・スマホやタブレット等の使用方法やネットモラルに関する情報提供の場を設け、自律に基づき適切な行動を取れるよう指導する。 ・生徒会行事や部局活動、日々の生活の中で、一方的な指導に偏ることなく、生徒と共に考え、導く姿勢を持つ。 ・全校集会・校内外巡回・通信作成等による全体指導を行う学年会・朝の打ち合わせ等による情報共有・指導事項の確認等を行う。 ・いじめ防止等対策委員会を実施する。 ・いじめアンケートを実施・集約・報告する。 ・巡回・面談等を通じ生徒の実態把握に努めるとともに、いじめアンケートの結果などを先生方にフィードバックすることを通じて、いじめの実態把握と職員の情報共有を図り、生徒指導部通信を活用しコンセンサスをとることに努め、『いじめ防止等対策基本方針』に沿って予防的・早期対応につなげる。 ・部長主任会議や職員会議・朝の打合せ等により情報共有・指導事項確認等を行う。 ・管内での研究会や生徒指導研究協議会等に積極的に参加することで、生徒の校外での状態の把握に努める。	○挨拶や返事、身だしなみ、スマートフォン使用のルール等について、共通の認識のもとで指導することができたか。 ○時代に沿った生徒心得の作成に向けて、執行部をはじめとする生徒の声を反映させながら進めることができたか。 ○いじめアンケートの結果等を先生方にフィードバックすることを通じて、生徒の状況の共有を図るとともに、生徒指導部通信を活用し、コンセンサスをとることができたか。 ○学年・分掌との連携を密にし、生徒指導の充実に努めるとともに、保護者・地域社会・関係諸機関とも連携することができたか。

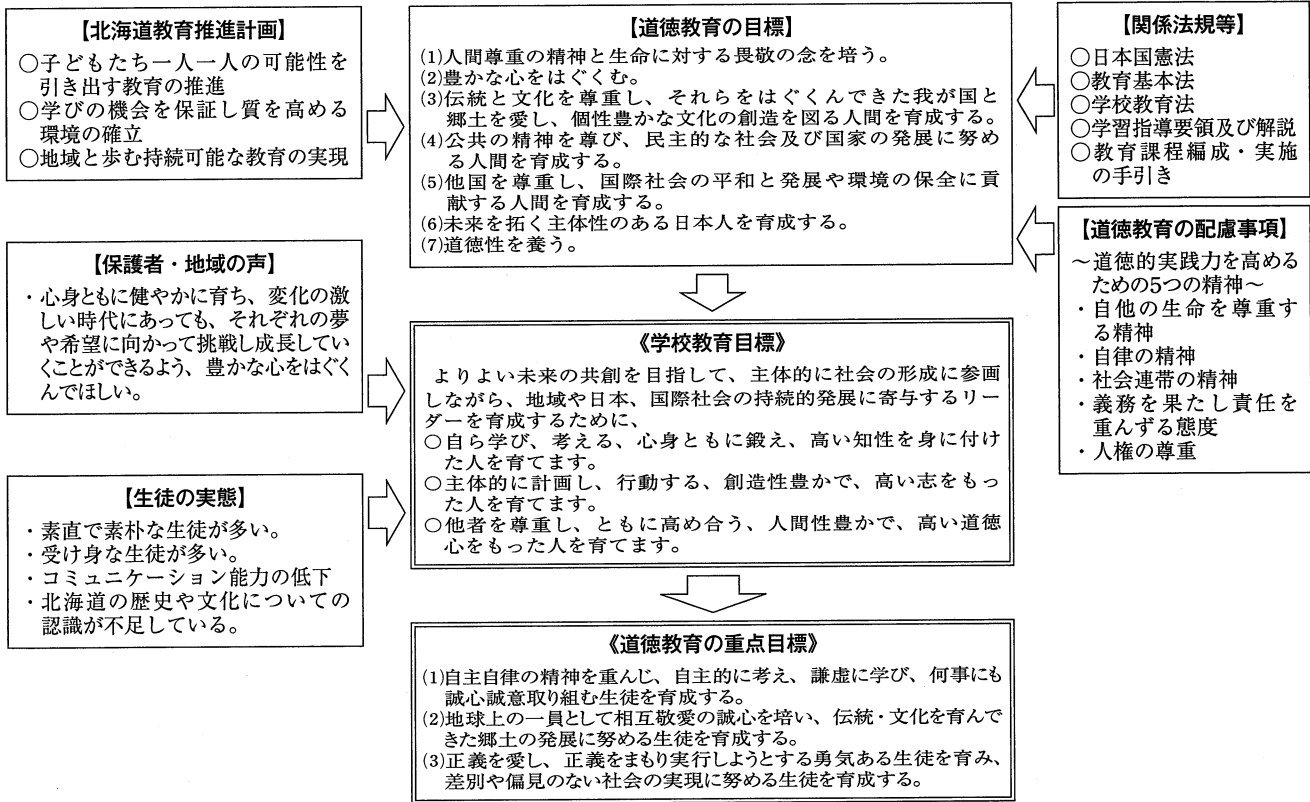
進路指導部 (キャリア教育)	◎自己理解を深め、主体的に考え、自らの力で進路を切り拓く能力を育成 ○3年間の見通しを持った体系的な進路指導、進路活動が出来るように指導方針を提示する。 ○生徒の学習状況を測定・分析し、課題の改善に生かす。 ○生徒のキャリアプランを構築するため、説明会等の実施形態を工夫する。 ○生徒・保護者を支援するため、教職員による情報収集を図り適切な情報発信に努める。	・体系的な進路指導のためのLHR、各種講義・講演会の整備を行い、講習、小論文・面接指導を通じて、生徒の進路実現に向けた活動を促す。 ・模試校内分析会を実施し、生徒の学習面における課題を発見し、講習や授業の工夫、および生徒の学習方法の改善に生かす。 ・統一学校説明会、湖陵アカデミア（語る会）、進路説明会・講演会・探究活動・AiGROW等を実施し、生徒が卒業後の視野を広げる機会を増やす。 ・教職員の各種研究会・検討会および入試説明会の案内、参加を促進し、進路説明会や進路通信等を利用し、情報発信を行う。	○各学年、分掌と連携し、体系的な進路指導方針を提示し、生徒が自己の進路実現に向けて主体的に活動できるよう促すことができたか。 ○模試校内分析会の実施と生徒へのフィードバックを行い、生徒の主体的な学習の促進につなげることができたか。 ○生徒が卒業生の進路先での学びや、地域の職業人の職業観に触れる機会として、湖陵アカデミアの開催を増やし、生徒の参加を促すことができたか。 ○教職員の各種研究会、検討会への参加を促進し、進路通信等を利用した適切な情報発信ができたか。
保健部 (健康・安全指導)	◎心身の健康増進及び安全、環境美化意識の高揚 ○心身ともに健康の保持増進の充実を図る。 ○教育相談に関する意識の向上と組織的な取組を推進する。 ○各種アンケートの活用方法と評価の改善・充実を図る。	・各種健康診断、心と身体のチェック、及び個別面談を実施する。 ・日常の清掃活動やゴミの分別指導、大掃除等を円滑に運用する。 ・ひだまり会議や個別面談・トレーニング、外部機関との連携など、全体で見守る支援や、相談体制を継続する。 ・SC講話の実施、心と身体のチェック、面談週間を設定し活用する。 ・心と身体のチェック、自己効力測定等のアンケートの実施する。 ・情報発信による啓発やピアサポート研修会を実施する。	○機会があるごとに啓発を行い、健康に対する意識を高め、自己管理できるように支援することができたか。 ○サポート委員会や分掌、学年間の情報を共有するとともに、スクールカウンセラー等との連携を通じた、個々の生徒への適切な対応を行うことができたか。 ○学年やSSH推進部と連携し、心と身体のチェック・自己効力測定等のアンケートを実施し、アンケートの実施改善及び活用ができたか。
SSH推進部 (理数教育)	◎SSH事業を活用した探究能力の育成 ○VUCA時代に対応したKoryo Agencyの整理・体系化を図る。 ○SSH推進委員会によるPDCAサイクルの確立に努める。 ○KQと総合的な探究の時間の実施内容の充実を図り、SSH事業を文理探究科（普通科）へ普及させる。 ○Eプラン等のSSH事業を推進する。 ○外部機関と連携した取組を推進する。	・コンピテンシーに関わるルーブリックを作成する。 ・評価委員会の実施する。 ・自己評価アンケートやAiGROWによる相互評価を年間2回以上実施し、エージェンシー分析WGによるコンピテンシーに関わる調査の実施と分析を行う。 ・カリキュラムWGによる単元配列表の作成を通して、コンピテンシー育成に関わる教育活動を可視化する。 ・授業改善WGによる教科横断的なPBL型授業を3回以上実施する。 ・1年生の総合的な探究の時間において、育成すべきコンピテンシーを検討しながら、探究プログラムを開発し、実施・検証を行う。 ・学年毎に育成するコンピテンシーを明確化する。 ・外部団体が実施する学会発表会への参加を促進する。 ・KCSや総合的な探究の時間で探究活動を担当している教員と連携し、積極的にEプランの提案がなされる土壌づくりを行う。 ・卒業生調査システムを構築する。 ・SSH特別科学講演会を実施する。 ・運営指導委員会を実施する。 ・他のSSH指定校との連携を図る。 ・学校HPにSSH事業の成果を掲載する。	○評価委員会を実施し、Koryo Agencyを構成するコンピテンシーを測定する方法を研究開発できたか。 ○ルーブリックの作成を通し、Koryo Agencyを体系化できたか。 ○SSH推進委員会の実施と、各ワーキンググループの運営を通し、コンピテンシー配列表を作成するとともに、教科横断的なPBL型授業の実施につなげることができたか。 ○KQと総合的な探究の時間の年間計画を作成し、内容の精査・改善を行うことができたか。学会や発表会への参加件数が年間15件以上あったか。 ○Eプランの提案が、年間10件以上あったか。本校の卒業生で科学の分野で活躍している人材を発掘することができたか。 ○全校生徒向けSSH特別科学講演会を年間10回以上実施できたか。 ○目的を明確にした先進校視察を実施するとともに、他のSSH校と連携した取組を実施することができたか。 ○SSH事業に関連した記事を年間20件以上掲載したか。
総務部	○各学校行事の円滑な実施を通じて、学校教育目標にある社会性を身に付けた、主体的、調和的な人材の育成を図る。 ○生徒の防災や危機に対する意識の向上を図る。 ○保護者・地域・中学校へ、学校の状況と教育の成果を積極的に情報提供する。 ○奨学金等の学修支援情報を遺漏なく広報する。	・各種学校行事を円滑に実施する。 ・「1日防災教室」を防災避難訓練とともに実施する。 ・PTA総会等の実施、安心メールの活用、HP更新や学校だより等を発刊する。 ・各奨学金情報の掲示、案内及び奨学金ガイダンス等を実施する。	○分掌・学年・教科・事務・定時制と連携し、各種行事の目標が達成できたか。 ○防火防災意識の向上に努めるとともに、減災を意識した生活態度の涵養が図れたか。 ○保護者等、PTA・後援会・同窓会との連絡調整が適正に図れたか。 ○円滑な申請手続きが行われるよう、適切な情報提供等に努めることができたか。

分学年	今年度の目標	実践計画	評価の観点
第1学年	○生徒指導 基本的な生活習慣を確立させ、教育活動全般を通じて自立性、社会性を身につけた人格の形成を図る。 情報機器端末の適切な活用について理解させる。 ○学習指導 各教科の基礎・基本を定着させるため、教科間の連携を図りながら主体的に学ぶ習慣を確立させる。 ICTの活用等により、それぞれの生徒に応じた最適な学びを実現させる。 探究活動の基礎・基本を身につけさせる。 ○進路指導 自己理解を深め、適切な文理選択ができるよう指導・支援を行い、進路実現に向けた学び合いができる集団の形成を図る。 ○健康安全指導 心身の健康増進を図るため、生徒情報を共有して学年全体の相談体制を構築する。	・学年集会の実施 L H R の活用と個人面談・三者面談の実施 学年通信及び学級通信の活用 宿泊研修の実施 ・学年集会の実施 L H R の活用と個人面談・三者面談の実施 授業の実施 学年通信及び学級通信の活用 宿泊研修の実施 ・学年集会の実施 L H R の活用と個人面談・三者面談の実施 進学講習（長期休業・放課後）の実施 各種進路説明会・進路講演会等の実施 学年通信及び学級通信の活用 宿泊研修の実施 ・学年集会の実施 L H R の活用と個人面談・三者面談の実施 学年会の実施及び関係する委員会等との連携 学年通信及び学級通信の活用 宿泊研修の実施	○基本的な規律に関する指導を継続的に実施することができたか。 自己理解を図るとともに、他人を思いやり尊重する態度を育成することができたか。 分掌等との連携により、SNS等の適切な活用方法について指導を行うことができたか。 ○基礎学力の定着に向け、授業への取り組み方や知識の活用方法について指導することができたか。 I C T の活用等を通じて、生徒に応じた最適な学びを実現させることができたか。 探究活動の基礎・基本習得に向けた指導・支援に努めることができたか。 ○教育活動全体を通じて、生徒個々の進路実現に向けた指導・支援に努めることができたか。 進学講習への積極的な参加を促し、学習意欲を向上させることができたか。 保護者等との連携を図り、学校と家庭が一体となって生徒を育成する体制を構築することができたか。 ○状況に応じた支援計画の作成や支援体制を構築することができたか。 帰属意識を高め、積極的に行事等に取り組む態度を養うことができたか。 清掃活動や美化活動を通して公共道徳を養うとともに、H R 教室を中心とした快適な学習環境を維持することができたか。
第2学年	○学習指導 各科目の知識・技能を定着させ、教科横断的な展開を図りながら思考力・判断力・表現力の向上を図る。 学習効率を上げるために、I C T 機器の活用を図る。 K Q や探究活動の学習を通して、課題解決、情報発信ができるように努める。 ○生徒指導 基本的な生活習慣を確立させ、教育活動全般を通じて他と協働する社会性、自ら進んで行動する主体性を身につけた人格の形成を図る。 積極的に地域社会へ参画する態度を養い、適切に情報機器を活用し、発信できる人材の育成を図る。 ○キャリア教育 学力測定や自己分析を行い、進路選択・実現に向けた自己の在り方を深められるよう努める。 進路実現に向けた集団形成を構築し、生徒・保護者への確かな情報提供・支援の充実を図る。 ○健康・安全指導 生徒が自己管理できるアプローチを行い、生徒状況を共有して相談体制の確立に努める。 防災対策や危機管理意識をもたせ、安全教育を推進する。 見学旅行におけるよりよい人間関係の構築と安全管理に努める。	・学習習慣の確立 学年集会の実施と通信の活用 L H R の活用と個人面談・三者面談の実施 定期試験、模擬試験や検査の振り返り指導 探究活動の日常化 ・挨拶の励行 学年集会の実施と通信の活用 L H R の活用と個人面談・三者面談の実施 見学旅行の実施 ・学年集会の実施と通信の活用 L H R の活用と個人面談・三者面談の実施 長期休業中の講習・放課後講習の実施 進路に関する説明会・講演会・分析会の実施 ・学年集会の実施と通信の活用 L H R の活用と個人面談・三者面談の実施 清掃・環境美化活動の実施 見学旅行の計画・実施 学年会の実施	○対話的に取り組み、他へアウトプットすることで深い学びを実現する。 クロームブック等を活用し、表現力を伸長させ、成果を蓄積する。 分掌と連携し真理を探究する態度を醸成する。 ○基本的な規律に関する指導を継続的に実施する。 自己理解、他者理解に努め、他人を思いやる態度を育成し、よりよい集団を形成する。 分掌と連携していじめのない学年を目指す。 ○教育活動を通じて、総合型選抜や学校推薦型選抜にも対応できるよう、生徒個々の進路実現に向けた指導・支援に努める。 講習や検定試験への積極的な参加を促し、学習意欲の向上に努める。 保護者等との連携を図り、生徒を育成する体制づくりに努める。 ○状況に応じた支援計画の作成や支援体制の構築に努める。 帰属意識を高め、集団に寄与する態度を養う。 清掃活動や美化活動を通して公共道徳を養い、快適な学習環境の維持に努める。 安心安全な見学旅行の計画と実施を図る。
第3学年	○学習指導 I C T 機器の活用と教科横断的な展開により、学力の向上を図る。 探究活動を通して、思考力、判断力、表現力を身につけ、課題解決、発信ができるように努める。 ○生徒指導 成人として自律心と自他を尊重する心を養い、地域社会に貢献する人材の育成を図る。 いじめの防止と望ましい人間関係の形成に努め、主体的に協働する資質の育成を図る。 ○キャリア教育 自己理解を深め、互いに学び合う集団の形成を図る。 I C T 機器を活用して生徒・保護者等への的確な進路支援に努める。 ○健康・安全指導 心身ともに健康で自己管理ができるよう、相談体制、サポート体制の確立に努める。 防災対策や危機管理意識をもたせ、安全教育を図る。	・学習の質の向上 L H R の活用と個人面談・三者面談の実施 定期試験や模擬試験の振り返り指導 総合的な探究の時間の運用 ・挨拶の励行 学年集会の実施と通信の活用 L H R の活用と個人面談・三者面談の実施 ・学年集会の実施と通信の活用 L H R の活用と個人面談・三者面談の実施 各種講習の実施 進路に関する説明会・講演会・分析会の実施 ・学年集会の実施と通信の活用 L H R の活用と個人面談・三者面談の実施 清掃・環境美化活動の実施 学年会の実施	○I C T 機器等を活用した授業内容の改善を通して学力向上に取り組む。 対話的に取り組み、表現力を伸長させ、成果を発信する展開を実施する。 ○行動規範を意識し、学校行事へ積極的に参画する態度の醸成に取り組む。 いじめのない、自他ともに尊重する集団の形成に取り組む。 ○模擬試験の実施と総合型選抜や学校推薦型選抜に対応した指導・支援に努める。 進路情報の収集と生徒や保護者へのフィードバックに取り組む。 ○支援計画の作成や支援体制の構築に取り組む。 日常的に防災意識・安全管理を意識した指導を実施する。

11 特別活動全体計画



12 道徳教育全体計画



【教科・科目】		【特別活動】		【総合的な学習（探究）の時間】	
・各教科・科目の目標を達成する学習活動の中で道徳性を育成する。 ・人間の在り方生き方に関する教育を、それぞれの教科・科目の特質に応じて実践する。		・集団活動を通して、個性の伸長を図り、自主的、実践的な態度を育て、人間としての在り方生き方について自覚を深め、自己を生かす能力を育てる。		・各教科・科目及び特別活動で身に付けた知識や技能等を関連づけ、自己の在り方生き方について考えさせる。	
国語	表現力と理解力を育成するとともに、思考力や想像力を伸ばし、心情を豊かにし、言語感覚を磨き、道徳的心情・判断力を養う。言語文化への関心を深め、我が国と郷土を愛する態度を養う。	学級活動	・自己の役割を自覚し、責任を持って諸問題の解決にあたり、健全な生活態度を育てる。	【生徒指導】 ・登校指導における挨拶の励行、遅刻指導、頭髪及び服装指導 ・始業式、終業式やその他の全校集会・学年集会等での服装及び頭髪指導 ・列車、定期バス添乗指導	
	生徒会活動	・他学年間の交流など人間的なふれあいを基盤とした望ましい集団活動を通して、生徒一人ひとりの個性や能力を伸ばすとともに、協力してよりよい集団生活・社会生活を築こうとする態度を育てる。			
	学校行事	・学校生活の充実と発展に資する体験的な活動を促進し、生徒一人ひとりの集団への所属感、湖陵に対する愛校心を育てる。			
地理歴史・公民	我が国及び世界の国々の伝統と文化を尊重し、それらを育んできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に貢献する態度を養う。 公民的資質の基礎の上に人間としての在り方生き方いわゆる倫理観を育てる。			【進路指導を通じた道徳教育】 ・進路研究・ガイダンスを通して、勤労の尊さ、創造することの喜び、望ましい勤労観・職業観の育成、社会奉仕の精神の涵養を図り、社会の構成員としての自覚を深め、知・徳・体の調和のとれた人間を育てる。	
数学	事象を数学的に考察し筋道を立てて考え、表現する能力を高め、道徳的判断力を育てる。				
理科	探究活動を通して、自然と人間のかかりについて認識を深め、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を育てる。また、観察・実験を通して道徳的判断力や真理を大切にしようとする態度を育てる。	外国語	我が国や外国の言語・文化に対する理解を深め、世界の中の日本人であることを自覚するとともに、国際的視野に立って世界の平和と人類の幸福に貢献しようとする態度を育てる。	【家庭・地域との連携】 ・学校、家庭、地域の相互理解に努め、協力体制を確立する。 ・地域ぐるみのふれあいを奨励し、協力する。（学校祭、夏祭り、定期演奏会等） ・家庭の道徳的教育力の向上を図る。	
保健体育	運動の実践を通して、ルールやマナーの遵守など、公正、協力、責任、参画に対する態度を育てる。また、健康の大切さを知り、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善しようとする態度を育てる。	家庭	勤労の尊さや家族・家庭の意義を理解し、家族への敬愛の念を深めるとともに、家庭や地域社会の一員としての自覚をもって自分の生き方を考え、生活をよりよくしていこうとする態度を育てる。		
芸術	芸術を愛好する心情を育て、感性を高め、美しいものや崇高なものを尊重する態度を育てるとともに、豊かな情操を養い道徳性の基盤を育成する。	情報	情報社会で適正な活動を行うためマナーやモラルを守ることの重要さの浸透に努める。		

13 学校保健計画

区分 月	月の 目 標	学 校 行 事	保 健 管 理		保 健 学 習		教 育		組 織 活 動 (連 携)	
			対 人 管 理	対 物 管 理	保 健 学 習		保 健 指 導			
					体育科(保健) 1学年/2学年	関連教科 (家庭科)				
4	新しい環境 に慣れよう	総 合 健 診 (1 学 年) 内科検診 歯科検診 尿検査 身体測定 (2 ・ 3 学 年)	健康調査票 等の整理 健康相談	大掃除	健康の考 え方と成り立 ち・健康の 定義 ／ライフス テージと健 康		・健康診断の意義と受け 方 ・保健室の利用・役割	学校医との 連携		
5	自分の生活 リズムを整 えよう	内科検診 面談週間	各種検診結 果のまとめ 要精検者へ の勧告 健康相談	照度検査	生 活 習 慣 病・がん／ 性について		・健康診断事後指導 ・ストレスケア①			
6	自己の健康 状態を把握 し管理しよ う	スクールカ ウンセラー 講話 (1 年)	健康相談 健 康 状 態 チェックシ ート		運動・食事・ 休養・睡眠 ／結婚・妊 娠・中絶	健康で快適 な衣生活	・歯の健康について			
7	心身の健康 管理に努め よう	スクールカ ウンセラー 講話 (2 年)	健康相談	大掃除	喫煙／高齢者		・夏の体調管理			
8	もしもの時 の応急処置 を知ろう		健康相談		飲酒・薬物 乱用／保 険制度と保 健サービスの 活用	高齢者の心 身の特徴	・体育大会にむけて (安 全指導・応急処置の 知識)			
9	自分の生活 リズムを整 えよう		健康相談	教室照度検査 ワックスがけ	精神疾患／ 医療制度		・ストレスケア② ・性の指導 ・高校生ライフデザイン 講座			
10	半期を振り 返り、後期の 健康生活を 計画しよう	スクールカ ウンセラー 講話 (3 年) 面談週間	健康相談 見学旅行 健康調査	水質検査	現代の感染 症／公害と 健康	乳幼児の心 身の発達	・見学旅行にむけて (体調管理等)			
11	性・エイズ について学 ぼう	ライフデザ イン講座 (1 学年)	健康相談 健 康 状 態 チェックシ ート		健康に関す る意志決定・ 行動選択／ 環境対策	健康や環境 に配慮した 食生活	・ストレスケア③	管内教 育相談 研究会		
12	心身の健康を 管理し増進に 努めよう		健康相談	大掃除	交通安全／ 食品の安全 性		・冬の体調管理			
1	風邪／イン フルエンザ の予防に努 めよう		健康相談	大掃除	交通安全／ 働くことと 健康		・感染症の予防①			
2	心身の健康を 管理し増進に 努めよう		健康相談	教室空気検査	心肺蘇生法 ／健康的な 職業生活		・感染症の予防②			
3	1 年間の健 康生活の振 り返りをし よう		健康相談	大掃除・カー テンクリー ニング 掃除用具点検	応急手当／ 時事的な保 健関連分野	安全や環境 に配慮した 住生活	・1 年間の反省と評価		↓	

14 学校安全計画

区分 月	月 の 目 標	学 校 行 事	安 全 管 理		安 全 教 育			組 織 活 動 (連 携)
			対 人 管 理	対 物 管 理	安 全 学 習		安 全 指 導 (LHR、生徒会活動、部活動)	
					関 連 教 科 (体 育) (保 健)	(理 科) (家 庭 科) (そ の 他)		
4	新しい環境に慣れ安全に通学しよう	通学路安全指導 部活動年間計画 宿泊研修 交通安全防犯教室 湖陵の日	通学状況調査 安全計画の策定	学校周辺における危険地域チェック	(体)基本的な体育の授業における安全運動用具の使用と管理	(理)施設、設備、薬品管理等の点検	・既往症の確認 ・宿泊研修の安全について ・自転車の交通安全について(校外巡視指導) ・交通安全・防犯・薬物乱用教室に関わる安全指導	学校医、学校歯科医、薬剤師との連携(毎月)
5	学校生活の安全を考えよう	高体連支部大会	避難体制の確認	防火設備(消火器、消火栓、火災報知器)の点検整備(毎月)	(体)器械体操における安全(保)意志決定・行動選択、事故への繋がりを考える。	(理)力のつりあい、力学的エネルギー、慣性の法則	・避難訓練に関わる安全指導	衛生委員会 釧路警察署との連携
6	部活動での安全を考えよう	定期考査 高体連全道大会 自転車車体点検	部活動、同好会、局加入生徒の健康状態把握	校舎内、グラウンド、体育館の安全点検	(体)球技における安全(保)生活習慣病	(家)衣生活面での健康と安全について学ぶ	・自転車車体点検 ・下宿生指導	学校保健委員会
7	湖陵祭を安全に行おう	避難訓練 湖陵祭、行灯行列 夏季休業中の生活指導	学校祭準備中の健康指導、行灯行列の交通指導、模擬店の食中毒防止	学校祭模擬店使用器具等についての安全確認	(体)簡易ゲームにおける安全(保)飲酒・薬・薬物乱用	(家)悪徳商法クーリングオフ等について学ぶ	・湖陵祭の準備に当たつての安全指導 ・夏季休業中の心得 ・熱中症を中心とした夏の体調管理	行灯行列の警察との連携 衛生委員会
8	体育大会での安全を考えよう	体育大会統一学校説明会	体育大会での事故、負傷防止	体育大会実施会場の安全確認	(体)体育大会における安全	(理)熱と仕事	・体育大会にむけて(安全指導・応急処置の知識) ・保健だよりの発行	
9	屋外での活動の安全に努めよう	定期考査 前期終業日 列車添乗指導 ライフデザイン講座(1学年)	地震・津波対策の徹底と対応の確認	防災設備の点検と整備	(保)感染症(エイズを含む)と予防	(理)重金属等の毒性(家)高齢者の安全な生活	・列車、バス等の通学指導 ・前期の反省	
10	見学旅行の安全を考えよう	後期始業日 見学旅行 保護者説明会(1・2学年)	見学旅行安全対策の徹底	水質検査	(体)柔道における安全(保)欲求と適応機制・ストレス	(理)運動量の保存、衝突について(理数)食品・薬品の化学	・見学旅行にむけて(体調管理等) ・保健だよりの発行	衛生委員会
11	安全な通学に努めよう	定期考査	降雪時を含む交通安全指導の徹底	通学路の安全点検	(体)冬季スポーツにおける安全(保)環境対策	(理)生物の生活と環境(家)子どもの安全	・AIDS/薬物乱用の防止(世界エイズデー:12月1日)	管内教育相談研究会
12	事故や災害時の対応を考えよう	冬季休業中の生活指導	冬季休業中の生活安全指導	施設設備の安全点検	(保)交通事故・運転者の資質と責任/食品の安全性	(理)生態系の平衡と保全	・冬季休業中の心得 ・冬の体調管理	
1	冬休みの安全な生活に努めよう	(共通テスト)	冬季通学路の安全確保	学校環境の安全点検	(保)安全な交通社会作り/働くことと健康	(理)有機化合物の性質(家)食生活面での安全	・受験に向けての健康と安全(ストレスケア、室内環境、リラックス法など)	
2	室内の換気等安全な環境を維持しよう	定期考査 防災指導	換気、採光設備等の点検と検査	二酸化炭素・相対湿度・室温検査	(保)心肺蘇生法/健康的な職業生活	(家)調理実習における安全	・LHRでの防災指導	衛生委員会 学校医からの安全指導
3	安全な生活について反省をしよう	卒業式 修了式 年度末・始休業中の生活指導	今年度の活動の反省と次年度の計画立案	今年度の安全に関わる活動の評価	(保)応急手当/時事的な保健関連分野	(家)住生活面における安全	・年度末・始休業中の心得 ・一年間の評価と反省	活動の評価と反省

15 部活動・外局

(1) 部活動

【体 育 系】			顧 問	部員数
1	陸 上 競 技		植地・松澤	25
2	剣 道		池端・竹内	9
3	野 球		大川・小川・兼子	30
4	サ ッ カ ー		板橋・関山	29
5	卓 球		田口・小嶋	24
6	山 岳		玉森・上内・石田・竹内	24
7	弓 道		多田・木全	38
8	バスケットボール	男子	弥田・住本	34
		女子	高橋(翔)・町田	14
9	テ ニ ス		山形・石田	12
10	ソ フ ト テ ニ ス		池田・及川・大川原	24
11	バレーボール	男子	有野・對馬	19
		女子	宮城・浅野	14
12	バ ド ミ ン ト ン		五十嵐・山木	17
13	ハ ン ド ボ ー ル		高橋(容)・百武	27
14	ス ケ ー ト		中山・兼子	8
15	空 手		高坂・亀山	11

【文 化 系】			顧 問		部員数
1	茶 道		三坂	田宮・岡田・ 菊谷・中山	10
2	文 芸		大川原		11
3	家 政		植地		22
4	書 道		中山	弥田・五十嵐・ 松澤	11
5	写 真		田宮		16
6	美 術		池端		10
7	器 楽		市川・菊谷		46
8	探 究	物 理	SSH 推進部員	高橋(翔)・大井・ 片山・木全・ 多田・上内・ 町田	6
		化学			8
		生物			12
9	音 楽 研 究		安田・亀山		29
10	合 唱		高坂・安田		13
11	演 劇		小華和		0
12	外 国 語		高橋(翔)・レイチェル		19

(2) 外局

【外 局】			顧 問	局員数
1	応援団	応 援	生徒指導部	36
		チアリーディング	笹木・岡田	22
2	図 書		教務部	7

【外 局】			顧 問	局員数
3	放 送	片山	百武・大川原・ 及川	5
4	新 聞	小華和		1

*数字は令和7年5月1日現在
*加入率100% (但し兼部を含む)

16 学 校 図 書 館

図書館の規模・設備

	面 積	机		椅子	書架	ロッカー	そ の 他
閱 覧 室	235.80㎡	2人用 10	6人用 7	62	47	カバン、コート用 30	新聞閲覧台(2) ラウンドケース(9)、長いす(2)
司 書 室	39.77㎡	個人用 2	6人用 2	2	0	4	
作 業 室	18.00㎡	個人用 0	6人用 1	6	0	0	
書 庫	34.03㎡	個人用 0	6人用 1	1	移動式 (14)	0	

蔵書構成 (NDC)

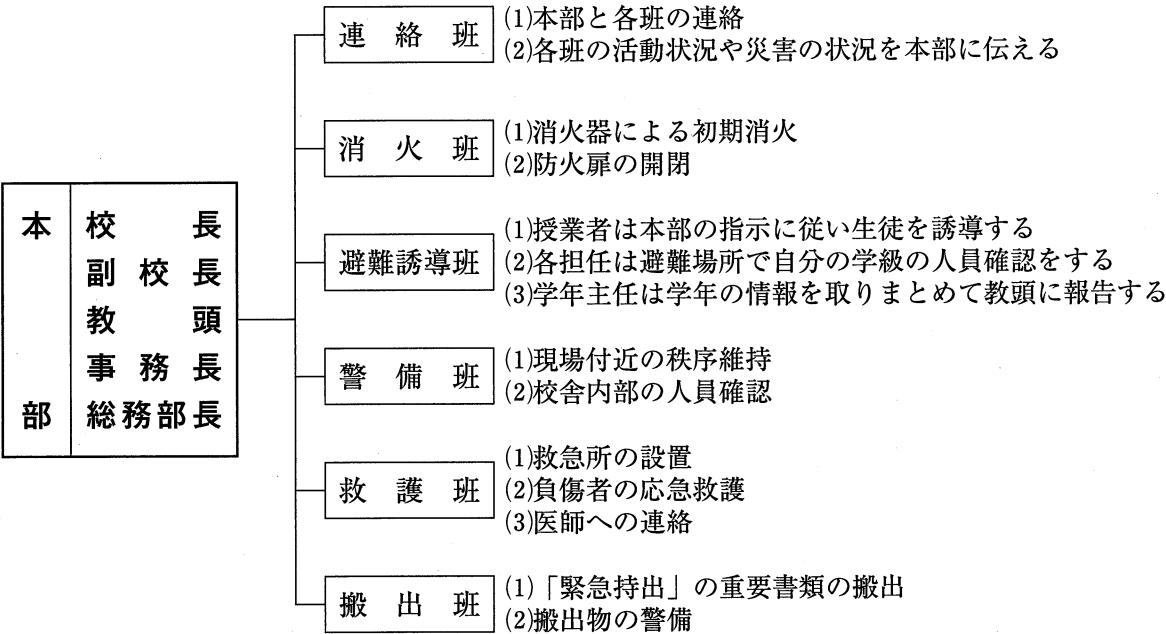
(令和7年3月31日現在)

分類		総記	哲学	歴史	社会科学	自然科学	工業	産業	芸術	言語	文学	合計
(NDC)		000	100	200	300	400	500	600	700	800	900	0～9
蔵書冊数		646	1373	2444	2365	2674	893	283	2143	781	7955	21557
比率	基準	6	9	15	11	16	6	5	7	6	19	100%
蔵書	本校	3.0%	6.4%	11.3%	10.9%	12.4%	4.1%	1.3%	10.0%	3.6%	37.0%	100%

*蔵書配分比率の標準は、全国学校図書館協議会2000年3月21日制定「学校図書館メディア基準」による

17 学校防災組織

全 日 制



○本 部 (1)災害の校内通報 (2)状況の判断と各班への指示 (3)避難場所の指示 (4)関係機関への連絡

18 生 徒 状 況

通 学 方 法 (複数回答あり)

	徒歩	自転車	バス	列車	保護者 送 迎
1 年	27	58	39	8	26
2 年	24	79	66	13	18
3 年	38	88	69	15	30
計	89	225	174	36	74

生 活 状 況

	自宅	下宿	アパート	その他 (親族等)
1 年	183	12	1	0
2 年	180	17	0	1
3 年	211	23	0	2
計	574	52	1	3

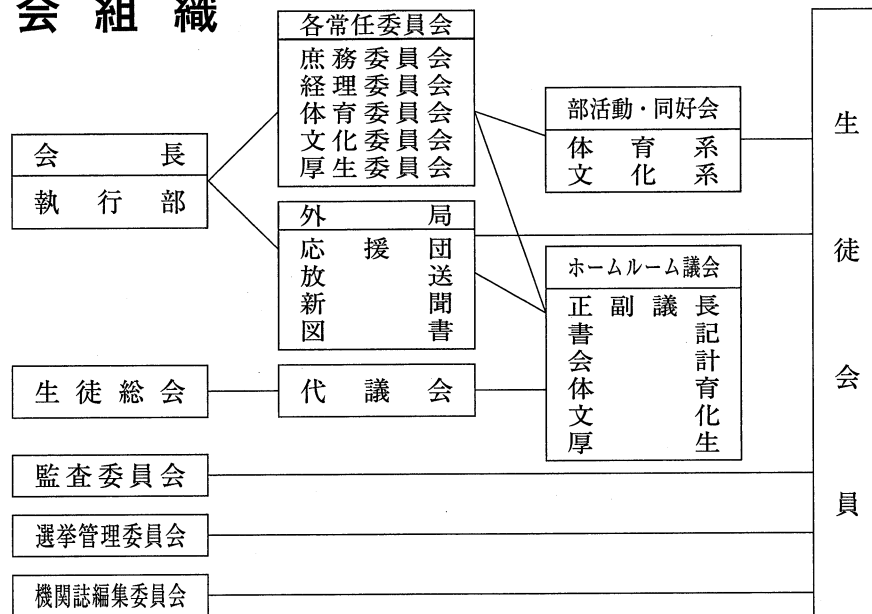
列車通学生内訳

駅名 学年	根 室 本 線							花 咲 線							釧 網 本 線					合 計
	新富士	新大楽毛	大楽毛	庶路	西庶路	白糠	音別	別保	上尾幌	尾幌	門静	厚岸	茶内	浜中	遠矢	塘路	標茶	磯分内	摩周	
1 年	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	2	1	0	0	0	5	0	2	11
2 年	0	0	1	0	0	1	1	0	0	0	0	2	1	0	0	0	2	0	1	9
3 年	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	5	0	0	0	0	2	1	4	13
小計	0	0	1	0	0	2	1	0	0	0	1	9	2	0	0	0	9	1	7	33

令和6年度卒業生 進路決定状況

	卒業者	就職希望者	進学希望者	決 定 者										未決定(宅浪含)
				大 学			準大学	国公立短大	私立短大	専修学校	公務員	民間就職	計	
				国公立	私立	計								
数	217	7	210	118	61	179	1	1	0	8	4	3	17	21
割合		3%	97%	54%	28%	82%	0%	0%	0%	4%	2%	1%	8%	10%

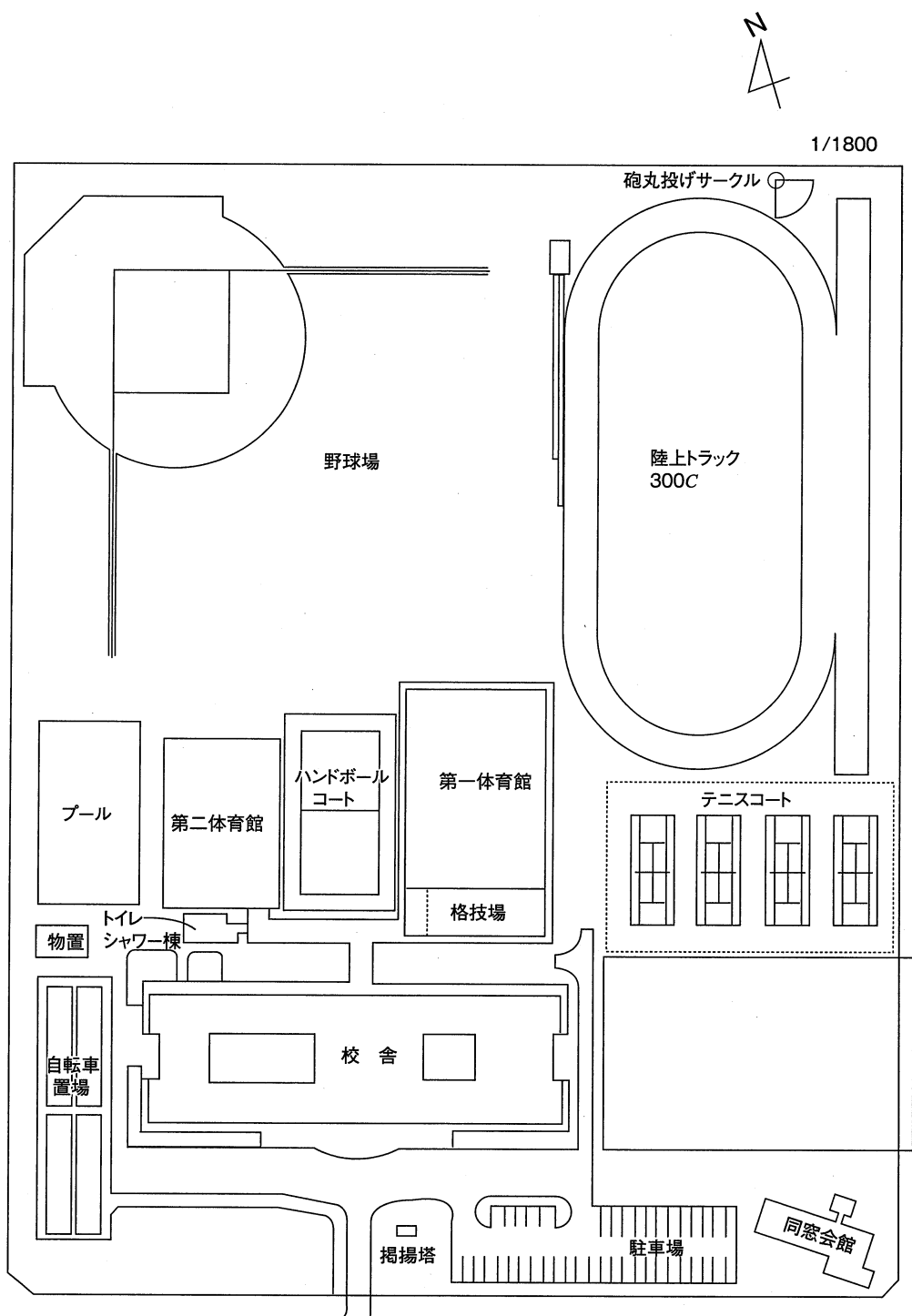
19 生徒会組織



20 卒業生概況

卒業年月	回数	男	女	別	計	卒業年月	回数	男	女	別	計	卒業年月	回数	男	女	別	計
大 7.3	1	31				昭 29.3	6	229	192		421	平 3.3	43	253	183		436
8.3	2	29				30.3	7	214	178		392	4.3	44	251	189		440
9.3	3	27				31.3	8	208	185		393	5.3	45	232	204		436
10.3	4	19				32.3	9	229	186		415	6.3	46	230	200		430
11.3	5	22				33.3	10	251	153		404	7.3	47	225	211		436
12.3	6	32				34.3	11	248	143		391	8.3	48	229	203		432
13.3	7	58				35.3	12	248	131		379	9.3	49	219	190		409
14.3	8	73				36.3	13	265	139		404	10.3	50	204	191		395
15.3	9	65				37.3	14	226	138		364	11.3	51	167	187		354
昭 2.3	10	102				38.3	15	246	136		382	12.3	52	179	166		345
3.3	11	110				39.3	16	231	149		380	13.3	53	181	170		351
4.3	12	103				40.3	17	292	149		441	14.3	54	173	184		357
5.3	13	112				41.3	18	281	135		416	15.3	55	141	172		313
6.3	14	102				42.3	19	281	154		435	16.3	56	156	163		319
7.3	15	117				43.3	20	275	185		460	17.3	57	149	165		314
8.3	16	112				44.3	21	277	138		415	18.3	58	140	170		310
9.3	17	114				45.3	22	301	121		422	19.3	59	136	141		277
10.3	18	118				46.3	23	281	115		396	20.3	60	118	159		277
11.3	19	116				47.3	24	246	127		373	21.3	61	147	129		276
12.3	20	137				48.3	25	252	117		369	22.3	62	137	140		277
13.3	21	122				49.3	26	235	133		368	23.3	63	133	144		277
14.3	22	142				50.3	27	279	111		390	24.3	64	121	120		241
15.3	23	143				51.3	28	243	137		380	25.3	65	140	135		275
16.3	24	129				52.3	29	258	125		383	26.3	66	117	119		236
17.3	25	150				53.3	30	252	138		390	27.3	67	118	120		238
18.3	26	137				54.3	31	285	135		420	28.3	68	116	118		234
19.3	27	133				55.3	32	291	138		429	29.3	69	114	123		237
20.3	28	161				56.3	33	272	148		420	30.3	70	118	115		233
21.3	30	82				57.3	34	277	157		434	31.3	71	116	124		240
22.3	31	141				58.3	35	301	124		425	令 2.3	72	118	119		237
23.3	32	235				59.3	36	279	147		426	3.3	73	105	126		231
24.3	33	43				60.3	37	269	157		426	4.3	74	106	111		217
24.3	1	120				61.3	38	263	148		411	5.3	75	120	102		222
25.3	2	184				62.3	39	262	174		436	6.3	76	129	103		232
26.3	3	167	115		282	63.3	40	249	168		417	7.3	77	101	116		217
27.3	4	180	136		316	平 1.3	41	267	144		411						
28.3	5	180	161		341	2.3	42	253	169		422						
卒業生計 30,453名 内訳 旧中 3,416名 高男 15,888名 高女 11,149名																	

21 校舎配置図

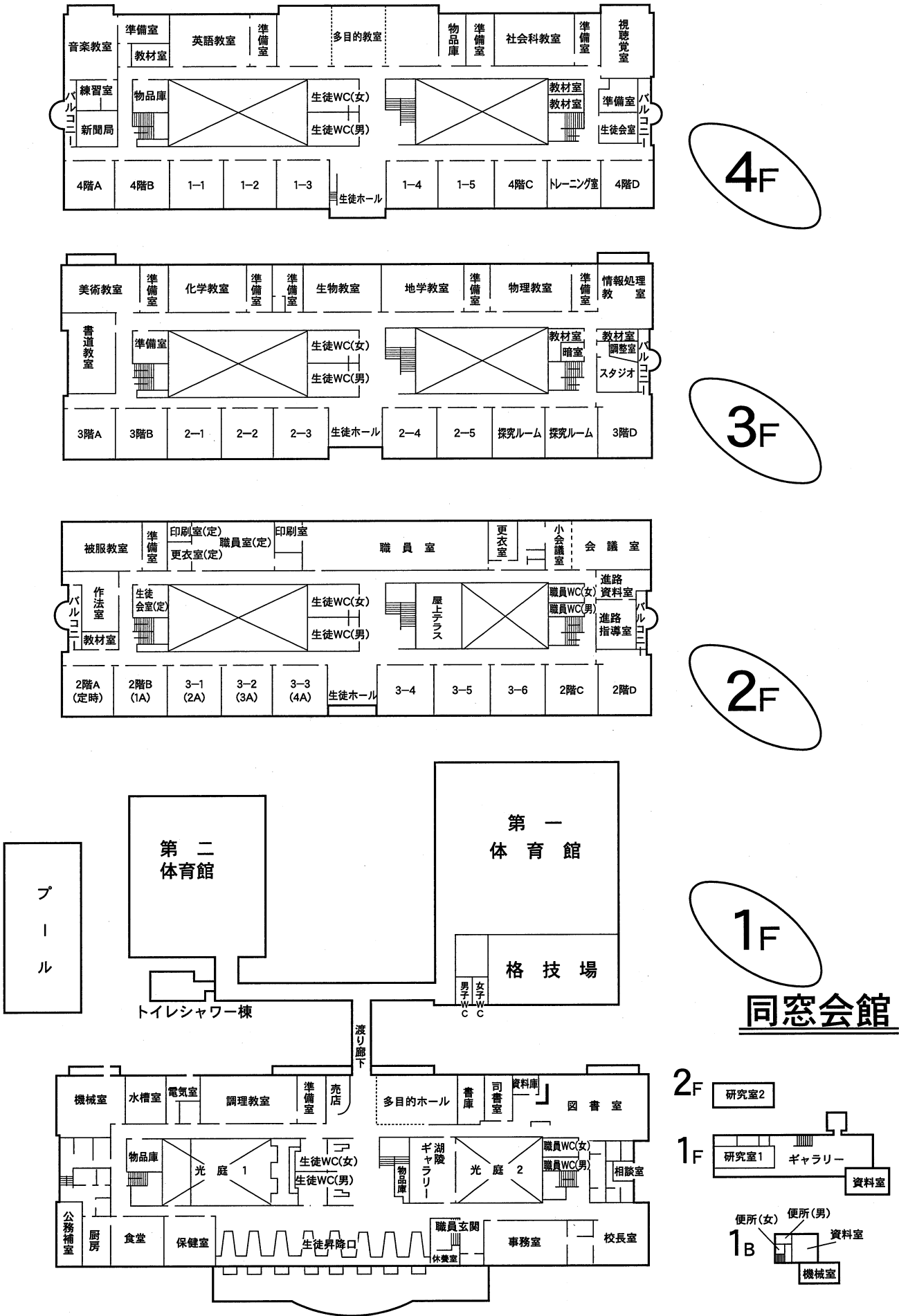


1/1800

校 地 面 積 54,900.00㎡

校 舎	10,576.20㎡
体 育 館	1,350.45㎡
格 技 場	310.50㎡
第 二 体 育 館	835.20㎡
廊 下	204.00㎡
ギ ャ ラ リ ー	298.39㎡
トイレ・シャワー棟	77.29㎡
そ の 他	163.00㎡
計	13,815.03㎡

22 校舎平面図



23 PTA役員等

(1) PTA役員

役職名	氏 名	クラス
会 長	佐 藤 公一郎	3 - 4
副 会 長	張 江 純一郎	3 - 3
	近 江 由美子	2 - 2
	荒 井 剛	1 - 5
理 事	三 浦 育 子	3 - 5
	丹 葉 光 宏	3 - 5
	松 井 聖 治	3 - 1
	棚 野 一 郎	2 - 1
	ローズ 友 恵	1 - 5
会 計	國 分 大 祐	3 - 4
	西 本 浩 通	事務長
	小 川 真 広	事務職員
監 査	島 田 勇 気	3 - 1
	濱 口 賢 太	2 - 1
事 務 局	渡 邊 理 実	副 校 長
	高 橋 康	教 頭
	池 田 耕	教 諭

(令和7年4月改選)

(3) 同窓会役員

役職名	氏 名
会 長	濱 屋 宏 隆
副 会 長	秋 里 喜久治
	伊 藤 理
	稲 垣 靖 子
	佐 藤 公一郎
幹 事 長	青 木 一 晃
会 計 長	國 分 大 祐
監 査	金 安 潤 子
	柴 崎 初 美
校内担当	渡 邊 理 実
	山 木 誠 一

(令和7年4月現在)

(2) 後援会役員

役職名	氏 名
会 長	安 田 正 二
副 会 長	濱 屋 宏 隆
	吉 田 英 司
	天 方 智 順
	梁 瀬 之 弘
	伊 藤 理
理 事	伊 藤 真 司
	高 橋 徹 次
	葭 本 正 美
	水 口 喜 文
	濁 沼 英 一
	中 村 圭 佐
	西 村 智 久
	尾 越 弘 典
	本 間 榮 一
	栗 林 延 次
	島 本 幸 一
	西 本 浩 通
	小 川 真 広
会 計	古 畑 健
監 査	渡 邊 理 実
事 務 局	高 橋 康
	池 田 耕
	亀 山 知 子

(令和7年4月改選)